

仏 教 学 部

履 修 要 項

昭 和 60 年 度

駒 澤 大 學

# 学 年 暦

## 前 期

- 4月8日(月) {入学式(学部・短大)  
{ 积尊降誕会
- 9日(火) }  
} 新生オリエンテーション
- 12日(金) }  
} 在校生成績発表(学部・短大)
- 11日(木) }  
} 成績質疑応答
- 16日(火) }  
} 授業開始
- 13日(土) }  
} 祝禱音楽法要の日
- 15日(月) }  
} 履修届受付(学部・短大1年次生)
- 18日(木) }  
} 履修届受付(学部2.3.4年次生・短大2.3年次生)
- 19日(金) }  
} (学部により受付日が異なる)
- 22日(月) }  
} 天皇誕生日
- 27日(土) }  
} 祝禱日
- 29日(月) }  
} 憲法記念日
- 5月1日(水) }  
} 研修日(全学休業)
- 3日(金) }  
} こどもの日
- 4日(土) }  
} 春季健康診断(2.3.4年次生対象)
- 5日(日) }  
} 祝禱音楽法要の日
- 14日(火) }  
} 祝禱日
- 23日(木) }  
} 憲法記念日
- 15日(水) }  
} 研修日(全学休業)
- 6月1日(土) }  
} こどもの日
- 10日(月) }  
} 春季健康診断(2.3.4年次生対象)
- 15日(土) }  
} 祝禱音楽法要の日
- 7月1日(月) }  
} 祝禱日
- 10日(水) }  
} 中間試験(授業平常通り)
- 16日(火) }  
} 盂蘭盆会
- 15日(月) }  
} 前期定期試験(前期終了科目)
- 17日(水) }  
} (授業休講)
- 18日(木) }  
} 夏季休暇第1日
- 19日(金)

## 後 期

- 9月9日(月) 授業再開
- 12日(木) 前期定期試験欠試届(追試申込)受付  
締切
- 12日(木) }  
} 外国語指定届受付(仏教・文(除英米文)・法学部・短大国文・英文の1年次生及び経済学部の2年次生)
- 19日(木) }  
} 敬老の日
- 15日(日) }  
} 祝禱音楽法要の日
- 17日(火) }  
} 前期定期試験成績発表及び再試験申込受付
- 17日(火) }  
} 秋分の日
- 18日(水) }  
} 前期追・再試験(授業平常通り)
- 23日(月) }  
} 前期追・再試験(授業平常通り)
- 25日(水) }  
} 前期追・再試験(授業平常通り)
- 27日(金)

- 29日(日) 両祖(道元・瑩山禅師)忌
- 10月1日(火) 祝禱日
- 1日(火) }  
} 秋季健康診断(1年次生対象)
- 4日(金) }  
} 専攻コース指定届受付(歴史・社会学科1年次生)
- 3日(木) }  
} 達磨忌
- 4日(金) }  
} 体育の日
- 5日(土) }  
} 前期追・再試験成績発表
- 10日(木) }  
} 前期追・再試験成績発表
- 11日(金) }  
} 前期追・再試験成績発表
- 12日(土) }  
} 前期追・再試験成績発表
- 15日(火) }  
} 第103回開校記念日(全学休業)
- 16日(水) }  
} 祝禱音楽法要の日
- 11月1日(金) }  
} 祝禱日
- 3日(日) }  
} 文化の日
- 13日(水) }  
} 転部科試験願書受付
- 15日(金) }  
} 祝禱音楽法要の日
- 15日(金) }  
} 祝禱音楽法要の日
- 21日(木) }  
} 太祖(瑩山禅師)降誕会
- 23日(土) }  
} 勤労感謝の日
- 29日(金) }  
} 転部科試験
- 12月1日(日) }  
} 祝禱日
- 4日(水) }  
} 編入学試験願書受付
- 12日(木) }  
} 編入学試験願書受付
- 8日(日) }  
} 成道会
- 10日(火) }  
} 卒業論文受付締切(正午)
- 18日(水) }  
} 卒業論文受付締切(正午)
- 19日(木) }  
} 冬季休暇第1日
- 19日(木) }  
} 編入学試験
- 昭和61年
- 1月8日(水) 授業再開
- 15日(水) 成人の日
- 16日(木) }  
} 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 27日(月) }  
} 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 26日(日) }  
} 高祖(道元禅師)降誕会
- 1月28日(火) }  
} 定期試験(一般・外国語・保健体育科目)
- 2月5日(水) }  
} 定期試験(一般・外国語・保健体育科目)
- 1日(土) }  
} 祝禱日
- 7日(金) }  
} 定期試験欠試届(追試申込)受付締切
- 11日(火) }  
} 卒業論文口頭試問
- 15日(土) }  
} 建国記念の日
- 19日(水) }  
} 涅槃会
- 19日(水) }  
} 成績発表及び追・再試験申込受付
- 20日(木) }  
} (学部4年次生・短大生)
- 26日(水) }  
} 追・再試験(学部4年次生・短大生)
- 26日(水) }  
} 追・再試験(学部4年次生・短大生)
- 3月4日(火) }  
} 追・再試験(学部1.2.3年次生)
- 1日(土) }  
} 祝禱日
- 19日(水) }  
} 卒業生名簿発表
- 21日(金) }  
} 春分の日
- 25日(火) }  
} 卒業式(学部・短大)

# 目 次

I	単位制と学年制	(2)
1.	単位制と学年制	(2)
2.	授業科目の単位計算	(2)
3.	授業科目の区分	(2)
II	卒業に必要な単位数と卒業論文	(3)
1.	卒業に必要な単位数	(3)
2.	卒業論文	(4)
3.	学 士 号	(4)
III	授業科目の履修方法	(5)
1.	一般教育科目の履修方法	(5)
2.	外国語科目の履修方法	(6)
3.	保健体育科目の履修方法	(7)
4.	基礎教育科目の履修方法	(11)
5.	専門教育科目の履修方法	(12)
6.	随意科目の履修方法	(16)
7.	再履修科目の履修方法	(16)
	※コード番号について	(17)
IV	履修科目の登録(履修届)とその作成順序	(19)
1.	履修科目の登録	(19)
2.	履修届記入上の注意	(20)
3.	履修届の作成順序	(21)
V	試験および成績評価	(22)
1.	定期試験	(22)
2.	中間試験	(22)
3.	追・再試験	(22)
4.	受験心得	(23)
5.	成績評価・単位認定	(23)
VI	進級について	(24)
VII	クラス制およびクラス主任	(25)
VIII	教職課程・資格講座	(25)
IX	事務取扱いについて	(26)
X	届書・願書について	(27)
XI	各種証明書取扱い窓口	(28)
	試験実施規程(抜萃)・進級規程・進級基準	(29)
	講 義 内 容	(33)

# I 単位制と学年制

## 1. 単位制と学年制

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、各入学年度によって定められた一定の基準にしたがって授業科目を履修し、試験に合格することによってその授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。卒業所要単位を修得するまでの在学期間は4カ年以上（7カ年をこえてはならない）である。

また、単位の修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されている。

## 2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は教室内における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なっている。

## 3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目（人文分野・社会分野・自然分野）
2. 外国語科目（第1外国語・第2外国語）
3. 保健体育科目（講義・実技）
4. 基礎教育科目（必修科目）
5. 専門教育科目（必修科目・選択科目）
6. 随意科目（卒業に必要な単位に含まれない科目）
  - (a) 必修科目……必ず履修しなければならない科目
  - (b) 選択必修科目……数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目
  - (c) 選択科目……自由に選び履修できる科目

## Ⅱ 卒業に必要な単位数と卒業論文

### 1. 卒業に必要な単位数

#### A. 60年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	24	132以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		4	16	16	
専門教育科目	必修	14	38	76	
	選択		30		
	卒業論文(必修)		8		

#### B. 59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	24	132以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		4	16	16	
専門教育科目	必修	14	38	76	
	選択		30		
	卒業論文(必修)		8		

## 2. 卒業論文

イ. 4年次で卒業論文（1部）を提出し、その審査に合格しなければ卒業することができない。なお、審査に合格した者には8単位が与えられる。

ロ. 卒業論文は原則として、演習Ⅰ、演習Ⅱにもとづいて指導教授および論題を決定するのが望ましい。

ハ. 論題提出について

(1) あらかじめ自己の研究目標をたて、2年次以降適当な選択科目を履修し、論題提出日までに、指導教授に自己の研究概要を述べ、その承認を得なければならない。

(2) 論題は所定の用紙（「卒業論文論題届」）に楷書で正確に記入の上、指導教授の承認印を受けて提出すること。

(3) 提出された論題の変更は原則として認めない。

論題提出期間 5月27日（月）から6月10日（月）正午まで（教務部⑥番窓口）

ニ. 論文作成について

(1) 論文作成にあたっては常に指導教授に相談して、その指導を受けなければならない。

(2) 論文は提出した論題により作成すること。

(3) 用紙は所定の論文用紙を使用すること。

(4) 論文は楷書でいねいを書くこと。

(5) 論文の枚数は序文より数えて50枚（100ページ）以上、100枚（200ページ）以内とし、それぞれページを記入すること。（「卒業論文作成の手引」を参照のこと）

(6) 表紙は指定のものを使用し、論文を二つ折りして右とじとする。

ホ. 論文提出について

(1) 論文は論題受付印のある「卒業論文審査願」とともに提出すること。

(2) 提出期間に遅れた場合や「卒業論文審査願」のない場合は受理しない。

(3) 論文は誤字・脱字・内容等について再点検し、提出すること。

論文提出期間 12月2日（月）から12月10日（火）正午まで（教務部⑥番窓口）

ヘ. 論文審査について

論文は指導教授によって審査され、論文の内容について口頭試問を行い可否を判定する。

口頭試問 2月7日（金）

## 3. 学 士 号

大学に4カ年以上（7カ年をこえてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には卒業証書を授与し、次の学士の称号が与えられる。

仏教学部 禅学科 } .....文学士  
                  仏教学科 }

### Ⅲ 授業科目の履修方法

※北海道教養部では授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

#### 授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配分されている。ただし、随意科目はこの限りではない。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は、本人の学生番号のクラスで履修すること。（再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこのかぎりではない）
- ハ. 各学年に配分された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配分された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低及び最高限度は教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

#### 1. 一般教育科目の履修方法

人文分野	4単位ずつ3科目	計	12単位	}	合計6科目	24単位
社会分野	4単位ずつ2科目	計	8単位			
自然分野	4単位 1科目		4単位			

※2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

分 野	授 業 科 目	単 位	履 修 科 目 数	備 考
人 文 分 野	宗 教 学 I (1年次必修)	4	} 「宗教学I」を含めて3科目選択必修	
	哲 学	4		
	論 理 学	4		
	文 学	4		
社 会 分 野	法 学 憲 法 (日本国憲法) (2単位を含む)	4	} 2科目選択必修	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする
	経 済 学	4		
	社 会 学	4		
自 然 分 野	自 然 科 学 概 論	4	} 1科目選択必修	
	心 理 学	4		
	人 類 学	4		

※「宗教学I」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

## 2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6カ国語が開講されている。これらのうち英語と、入学手続の際に指定した外国語の計2カ国語を履修することになり、その2カ国語を1年次および2年次において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

履修年次	第1外国語		第2外国語		計	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2	4	2	4	4	8
2年次	2	4	—	—	2	4
計	4	8	2	4	6	12

### 1年次の履修

6カ国語のうち英語1G・1Rの2科目と、入学手続の際に指定した外国語1G・1Rの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	履修科目数	備考
英語 1G	2		1G・1R 2科目を必修とする。ただし1Gは英会話または英語LLに代替できる	LL (ランゲージ・ラボラトリー)
英語 1R	2			
英会話	2			
英語 LL	2	視聴覚教材を使用した語学教育		
ドイツ語 1G	2	文法	5カ国語のうちから入学手続の際指定した1カ国語1G・1Rの2科目を必修すること	
ドイツ語 1R	2	講読		
フランス語 1G	2	文法		
フランス語 1R	2	講読		
中国語 1G	2	文法		
中国語 1R	2	講読		
スペイン語 1G	2	文法		
スペイン語 1R	2	講読		
ロシア語 1G	2	文法		
ロシア語 1R	2	講読		

### ※ 英語科目内容

英語1G：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語1R：講読を通し、内容と文構造の基本を把握する。

※「英語1R」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

## 2 年次の履修

1年次で履修の2カ国語のうち、いずれかを第1外国語として2AⅠ・2AⅡの2科目4単位を必修すること。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容
英 語 2AⅠ	2		中 国 語 2AⅠ	2	講 読
英 語 2AⅡ	2		中 国 語 2AⅡ	2	講 読
ド イ ツ 語 2AⅠ	2	講 読	ス ペ イ ン 語 2AⅠ	2	講 読
ド イ ツ 語 2AⅡ	2	講 読	ス ペ イ ン 語 2AⅡ	2	講 読
フ ラ ン ス 語 2AⅠ	2	講 読	ロ シ ア 語 2AⅠ	2	講 読
フ ラ ン ス 語 2AⅡ	2	講 読	ロ シ ア 語 2AⅡ	2	講 読

### ※英語科目内容

英語2AⅠ：講読を通し、幅広い教養を修得する。

英語2AⅡ：意志表現と意志伝達の能力を発展させ、応用力を修得する。

### 外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分は、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下4ケタ）により該当するクラスを履修すること。
- ロ. 1年次履修の外国語（英語と他の1カ国語）の中から第1外国語、第2外国語の別を学生自身が指定し、9月中旬に登録する。したがって1年次生は前期の授業で十分考慮の上登録すること。
- ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ニ. 不合格科目の再履修については別に定める。
- ホ. 2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

## 3. 保健体育科目の履修方法

カリキュラム改訂に伴い、昭和60年度入学生より新カリキュラムを適用する。なお昭和59年度以前入学生は、旧カリキュラムが適用される。

### A. 60年度入学生適用

講義と実技に分かれる。講義は1年次に1科目2単位、実技は1年次1科目1単位〈体育実技Ⅰ〉、2年次1科目1単位〈体育実技Ⅱ〉の3科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保 健 体 育 理 論	2	1年次前期または後期
実 技	体 育 実 技 Ⅰ	1	1年次 通年
	体 育 実 技 Ⅱ	1	2年次前期または後期

- イ. 講義の前期・後期の別は授業時間表で指定する。
  - ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。
  - ハ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。
  - ニ. 講義・体育実技Ⅰは月曜日に玉川校舎で授業を行う。
  - ホ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。
    - A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業
    - B. 前期（夏季休暇中）または後期（冬季休暇中）に実施される有料のシーズン・コースの授業
    - C. 前期（夏季休暇中）または後期（冬季休暇中）に実施される玉川校舎での集中授業
  - ヘ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。
- B. 59年度以前入学生適用**  
 講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	前期または後期
実 技	体 育 実 技	2	通 年

- イ. 講義の前期・後期の別は授業時間表で指定する。
- ロ. 講義・実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。
- ハ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。
- ニ. 講義・実技とも月曜日に玉川校舎で授業を行う。

**体育実技履修上の注意**

**1. 体育実技Ⅰの授業について（59年度以前入学生は体育実技）**

前期・後期とも、それぞれ履修時間表（次頁）に含まれている数種目の中から選択し受講する。ただし、前期と後期は同一種目を選択することはできない。

(a) 種目選択届

最初の授業時間において、前期・後期種目選択のためのオリエンテーションを実施し、決定するので必ず出席すること。

(b) 単位履修届

教務部に提出する「単位履修届」の科目名、担任名は授業時間表による科目名、担任名を記入すること。種目選択した種目名や担当者名ではない。

体育実技 I 時間表（1 年次，玉川校舎で実施する）

	月・1（禅・仏・国）		月・2（英・地）		月・3（歴・社）	
	担任名	森 本	担任名	森 本	担任名	太 田
種 目 担 当 者 名	トレーニング	武 藤	トレーニング	武 藤	トレーニング	武 藤
	室内球技	久保田	室内球技	久保田	室内球技	久保田
	テニス	浅野	テニス	浅野	テニス	浅野
	ソフトボール	太 田	ソフトボール	太 田	ソフトボール	太 田
	陸上競技	森 本	陸上競技	森 本	陸上競技	森 本
	体 操	竹 田	サッカー	秋 田	サッカー	秋 田
	卓球	村 松	卓球	原 山	卓球	村 松
剣道	上 山	剣道	上 山	剣道	上 山	

※59年度以前入学生は体育実技。

再履修クラス時間表（2 年次生以上の再履修者のクラスで，授業は本校で実施する）

種 目	火・3		水・1		水・2	
	担任名	大 石	担任名	三 幣	担任名	上 山
	室内球技	竹 田	室内球技	三 幣	室内球技	森 本
	太極拳	大 石	剣道	上 山	剣道	上 山

(c) 単位の認定について

1 年間の授業を通して，1 単位（59 年度以前入学生は 2 単位）を認定する。前期と後期は種目選択の上で便宜上分けられるもので，あくまでも 1 年間の授業によって単位の認定が行われる。

(d) 評価について

週 1 回の授業を真剣に受講することが実技の重要な意味であることから，本学においては評価の上で出席を最も優先させている。この基盤の上に立って前期・後期それぞれの種目において行われる実技試験等の点数，および平常の授業における態度が加味されて実技の評価が行われる。

(e) 見学について

身体の具合が悪い場合は，担任教員にその旨を報告し，授業を真面目に見学すること。

※長期見学者：前期または後期をほとんどあるいは全部見学せざるを得ない精神および身体上の故障や病気を持っている場合は，長期見学者として取り扱い，毎時間の真面目な見学をもって出席に代える。また，実技テストは行わず，レポートをもってこれに代える。レポートの課題については担任教員より指示を受けること。

(f) 服装・更衣について

種目毎に，それぞれの担任教員の指示に従い，指定された場所以外では着替えないこと。

(g) 盗難・事故・負傷について

- ①盗 難：実技の受講日には貴重品は持参しないこと。やむを得ず持参した場合には担任教員に指示を受けること。最近、特に実技の時間を狙った常習者が横行しているので十分注意してほしい。
- ②事故・負傷：実技の時間に事故や負傷が発生した場合には直ちに担任教員に報告し適切な指示を受けること。

(h) 掲示について

実技上の連絡は、玉川校舎事務室前の掲示板および玉川校舎入口の黒板に掲示するので、平常よく見しておくこと。

2. 体育実技Ⅱの授業について（60年度入学生適用）

2年次の前期または後期に、次のA・B・Cの体育実技Ⅱの授業の中から、一つを選んで履修し単位を修得する。

A. 本校での授業

授業は、学部学科の指定はなく全学部オープンである。昭和61年度履修要項に記載する体育実技Ⅱの授業時間表の中から、どの時間、どの種目でも選択し履修することができる。ただし、履修できるのは1時間、1種目だけに限る。また各時間、および種目は定員になり次第締切。なお、定員に達しない種目のうち極端に人数が少ない種目の場合、他の種目に移行して受講しなければならない場合もあり得る。単位は、前期または後期授業により1単位を認定する。

時間・種目の決定と履修届提出の方法と順序について

- ① 教務部に履修届を提出する以前に「体育実技Ⅱ種目選択届」を行う。開講時限および種目は、昭和61年度履修要項に記載する。
- ② 「体育実技Ⅱ種目選択届」の方法
  - 期間：在校生成績発表日より5日間とする。この期間に種目選択を行わない場合は、原則として体育実技Ⅱを履修することはできない。
  - 場所 } 未定 実施前に掲示板にて指示、および昭和61年度履修要項に記載する。
  - 時間 }
  - 持参する物：種目選択届用紙（成績発表時に配布する）、学生証、教務部提出用履修届用紙、昭和61年度授業時間表
  - 種目選択届が受理されると、教務部提出用履修届に種目選択済の確認印が押される。
- ③教務部への履修届提出
  - 種目選択済の確認印のない履修届は受け付けない。

B. シーズン・コース

シーズン・コース授業は、原則として本校での授業の体育実技Ⅱ（前記A）の選択が困難と認められた場合に履修することができる。単位は、本校での前期または後期の授業と同様1単位を認定する。実施期間は前期が夏季休暇中、後期が冬季休暇中とする。

○開講予定種目

前期 テニスA

テニスB

後期 スキーA

スキーB

※AとBは、実施場所または時期が異なる。

○具体的日程については、昭和61年度履修要項に記載する。

○申込み方法：「本校での授業」（前記A）と同様とする。

なお履修届はあらかじめシーズン・コース用に設定された土曜日、5時限（前期または後期）で提出する。

C. 集中授業コース

集中授業コースは、シーズン・コースと同様、原則として本校での授業の体育実技Ⅱ（前記A）の選択が困難と認められた場合に履修することができる。単位は本校での前期または後期の授業と同様1単位を認定する。

実施期間は、前期が夏季休暇中、後期が冬季休暇中とする。

○開講予定種目

前期・後期とも、ソフトボール、バドミントン、卓球、太極拳、ジャズダンスなど。

○具体的日程については、昭和61年度履修要項に記載する。

○申込み方法：「本校での授業」（前記A）と同様とする。

なお、履修届はあらかじめ集中授業コース用に設定された土曜日、5時限（前期または後期）で提出する。

#### 4. 基礎教育科目の履修方法

専門教育の基礎となる授業科目で1年次・2年次において4科目16単位を必修とする。

履修年次	授業科目	単位	備考
1年次	基礎仏教学	4	
	仏書解説Ⅰ	4	
2年次	仏教語解説	4	
	仏書解説Ⅱ	4	

## 5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は禅学科と仏教学科で異なる。

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分れ、各学科で定められた単位を修得することになっている。  
履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって十分検討した上で履修すること。

なお一度単位を修得した科目については再度履修しても単位にはならない。

### 禅学科

#### 必修科目 (46単位)

	授業科目	単位	科目内容	備考
二 年 次	禅学概論	4		
	禅宗史Ⅰ	2	中国禅宗史	
	宗典講読Ⅰ	2	修証義・用心集・随聞記	
	禅学実習Ⅰ	2	坐禅(坐禅儀)	
三 年 次	宗典講義Ⅰ	4	正法眼蔵	
	禅宗史Ⅱ	2	日本禅宗史	
	宗典講読Ⅱ	2	大清規・信心銘拈提	
	禅学講義	2	参同契・宝鏡三昧・証道歌	
	禅学演習Ⅰ	2	碧巖録・従容録・無門関	
	禅学実習Ⅱ	2	坐禅(用心記)	
	演習Ⅰ	4		
四 年 次	宗典講義Ⅱ	4	伝光録	
	禅学演習Ⅱ	2	洞山録・永平語録・臨濟録	
	演習Ⅱ	4		
	卒業論文	8		

※演習Ⅰ・演習Ⅱの履修方法については、2年次の秋頃に特別のオリエンテーションを行うので掲示に注意すること。

禅学科

選択科目(30単位以上) (2年次以降の履修科目)

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
禅学研究	4		哲学史	4	
禅籍講義	4		哲学史特講	4	
禅学特講	4	I・II・III・IV	哲学演習	4	
禅特講	4		東洋思想研究	4	
禅学思想史	4		中国哲学史	4	
詩偈	4		宗教学概論	4	
日用経典	4		新宗教概説 神道概説 宗教学	4	60年度は宗教哲学 (輪番開講)
禅美術	4		宗教史	4	
仏教概論	4		キリスト教史	4	
仏教研究	4		キリスト教概論	4	
仏教教理史Ⅰ	2	印度	パーリ語初級	4	
仏教教理史Ⅱ	2	中国	パーリ語上級	4	
印度仏教史	4		パーリ語演習	4	
中国仏教史	4		パーリ仏教特講	4	
日本仏教史	4		サンスクリット語初級	4	
印度仏教文化史	4		サンスクリット語上級	4	
仏教特講	4	I・II・III・IV・V (Vは休講)	サンスクリット語演習	4	
仏典研究	4		チベット語(文法)	4	
原始仏教	4		チベット語(講読)	4	
外国語仏書演習	4		中国文学概論	4	
各宗要 (浄土学) (真言学) (日蓮学)	4	60年度は日蓮教学 (輪番開講)	中国文学演習	4	
仏教民俗学	4		ラテン語特講	4	
仏教美術	4		宗教教育	4	
青少年問題研究	4		宗教行政	4	隔年開講
青少年指導演習	4		教化法	4	
哲学概説	4		青少年教化法	4	
現代哲学概説	4		心理学概論	4	

# 仏 教 学 科

## 必 修 科 目 (46単位)

	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	備 考
二 年 次	仏 教 概 論	4		
	仏 教 教 理 史 I	2	印度仏教教理史	
	仏 典 演 習 I	2	原人論・覚夢抄・七十五法	
	禪 学 実 習 I	2	坐禪(坐禪儀)	
三 年 次	仏 教 教 理 史 II	2	中国仏教教理史	
	印 度 哲 学 史	2		
	経 典 講 読 I	2	法句経・四十二章経・遺教 経・心経・金剛般若経	
	仏 典 演 習 II	2	起信論・三論玄義・四教儀 ・五教章	
	宗 典 講 義 I	4	正法眼蔵	
	禪 学 実 習 II	2	坐禪(用心記)	
	演 習 I	4		
四 年 次	経 典 講 読 II	2	法華 <sup>寿量品・維摩経</sup> 普門品・般若経	
	宗 典 講 義 II	4	伝光録	
	演 習 II	4		
	卒 業 論 文	8		

※演習Ⅰ・演習Ⅱの履修方法については、2年次の秋頃に特別のオリエンテーションを行うので掲示に注意すること。

# 仏 教 学 科

選 択 科 目 (30単位以上) (2年次以降の履修科目)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
仏 教 研 究	4		哲 学 史	4	
印 度 仏 教 史	4		哲 学 史 特 講	4	
中 国 仏 教 史	4		哲 学 演 習	4	
日 本 仏 教 史	4		東 洋 思 想 研 究	4	
印 度 仏 教 文 化 史	4		中 国 哲 学 史	4	
仏 教 特 講	4	I・II・III・IV・V (Vは休講)	宗 教 学 概 論	4	
仏 典 研 究	4		新 宗 教 概 説 神 道 概 説 宗 教 概 説	4	60年度は宗教哲学 (輪番開講)
原 始 仏 教	4		宗 教 史	4	
外 国 語 仏 書 演 習	4		キ リ ス ト 教 史	4	
各 宗 綱 要 (浄土学) (真言学) (日蓮学)	4	60年度は日蓮教学 (輪番開講)	キ リ ス ト 教 概 論	4	
仏 教 民 俗 学	4		パ ー リ 語 初 級	4	
仏 教 美 術	4		パ ー リ 語 上 級	4	
禪 学 概 論	4		パ ー リ 語 演 習	4	
禪 学 研 究	4		パ ー リ 仏 教 特 講	4	
禪 宗 史 I	2	中国	サ ン ス ク リ ッ ト 語 初 級	4	
禪 宗 史 II	2	日本	サ ン ス ク リ ッ ト 語 上 級	4	
禪 学 特 講	4	I・II・III・IV	サ ン ス ク リ ッ ト 語 演 習	4	
禪 特 講	4		チ ベ ッ ト 語 (文 法)	4	
禪 籍 講 義	4		チ ベ ッ ト 語 (講 読)	4	
禪 学 思 想 史	4		中 国 文 学 概 論	4	
詩 偈	4		中 国 文 学 演 習	4	
日 用 経 典	4		ラ テ ン 語 特 講	4	
禪 美 術	4		宗 教 教 育	4	
青 少 年 問 題 研 究	4		宗 教 行 政	4	隔年開講
青 少 年 指 導 演 習	4		教 化 法	4	
哲 学 概 説	4		青 少 年 教 化 法	4	
現 代 哲 学 概 説	4		心 理 学 概 論	4	

## 6. 随意科目の履修方法

随意科目は各学年とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることはできない。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
日 本 宗 教 文 化 史	4		日 本 語 F	2	(初級・中級)
ド イ ツ 語 F	2		ド イ ツ 語 FLL	2	(初級・中級)
フ ラ ン ス 語 F	2		フ ラ ン ス 語 FLL	2	(初級・中級)
中 国 語 F	2		中 国 語 FLL	2	(初級・中級)
ス ペ イ ン 語 F	2		ス ペ イ ン 語 FLL	2	(初級・中級)
ロ シ ア 語 F	2		ロ シ ア 語 FLL	2	(初級・中級)

※日本語Fは外国人留学生のみを対象とする科目で1年次生より履修できる。

## 7. 再履修科目の履修方法

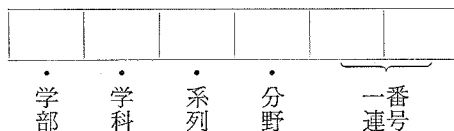
- イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を、翌年度に再度履修することをいう。この場合授業科目名が同じであれば担任教員に変更があっても同一科目の再履修となる。再履修科目は履修制限数には含まれない。
- ロ. 翌年度に再履修しないで翌々年度以降に履修する場合は、新履修とみなして制限科目数内で履修しなければならない。（休学の場合も同様）
- ハ. 再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届出なければならない。
- ニ. 外国語・体育実技Ⅰ（59年度以前入学生は体育実技）・保健体育理論および宗教学Ⅰを再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。ただし、原級者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。
- ホ. 1年次生は再履修クラスを履修することはできない。

## ※コード番号について

### 1. 授業科目コードの設定方法

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

(a) 科目コードの区分



(b) 学部，学科番号は「学生番号について」での説明のとおりである。

(c) 系列，分野区分について

授業科目の区分	系列番号	分 野 番 号
一般教育科目	0	
人 文 分 野		1(必修), 2(選択)
社 会 分 野		3
自 然 分 野		4
基礎教育科目	1	1
外国語科目	2	
第1外国語		
第2外国語		
保健体育科目	4	
実 技		1
講 義		2
専門教育科目	5	
必修科目		1. 2. 3
選択科目		5. 6. 7. 8
随意科目	7	
再履修科目	8	
課程・講座科目	9	
必修科目		1
選択科目		2
教科科目		3. 4. 5. 6. 7. 8

## 2. 学生番号について

学生番号は8桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせている。

この学生番号は入学から卒業まで学籍異動（原級・転部科など）がない限り変わらない。学内での事務処理はほとんど学生番号で処理されるので正確に覚えておくこと。

### 学生番号のみかた

学籍異動				学生番号区分				学籍異動の番号
入学 年度	(西曆)	学籍 異動	学 部	学 科	一連番号 (原級のつど変わる)			0……異動なし
								1……原級
								2……転部(科)
								3……編入
								4……原級をして転部(科) 転部(科)・編入をして原級

### 学部・学科の番号

学部・学科名	学部番号	学科番号	学部・学科名	学部番号	学科番号
仏 教 学 部	1		法 学 部	4	
禪 学 科		1	法 律 学 科		1
仏 教 学 科		2	政 治 学 科		2
文 学 部	2		経 営 学 部	5	
国 文 学 科		1	経 営 学 科		1
英 米 文 学 科		2	短 期 大 学	8	
地 理 学 科		3	国 文 科		1
歴 史 学 科		4	英 文 科		2
社 会 学 科		5	放 射 線 科		3
経 済 学 部	3				
経 済 学 科		1			
商 学 科		2			

(例)

5	0	1	1	0012
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
一九八五年入学	学籍異動なし	仏教学部	禪学科	12番

(1985年度入学・仏教学部禪学科12番)

## Ⅳ 履修科目の登録(履修届)とその作成順序

### 1. 履修科目の登録

毎学年次、所属する学科、学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び、所定の「単位履修届」用紙に必要事項を記入し届出ることにより、通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数（制限科目数）は次表のとおりとする。

年 次	新履修科目数	課程・講座登録者科目数
1 年 次	14 科 目	—
2 年 次	14 科 目 以 内	17 科 目 以 内
3 年 次	14 科 目 以 内	17 科 目 以 内
4 年 次	1 科 目 以 上	

イ. 2年次生以上の再履修科目および体育実技Ⅱ、随意科目は、上記表の制限外とする。

ロ. 4年次生は最低1科目以上とし、最高制限を設けないが、卒業単位および授業出席に十分ゆとりのある履修をすること。

ハ. 半期科目も1科目とする。

### II) 登録上の注意

イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し、学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は学業の意志のないものとして処理する。なお指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口に相談すること）

ロ. 履修届の日時・場所等についての詳細は原則として新年度成績発表前に教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし課程・講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが、その場合は、教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講・受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 「単位履修届」用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

## 2. 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

月 曜 日				
	科目名	科目コード	担任	担任コード
一時限	ドイツ語1G	112201	百 済	879
	~~~~~			
二時限	保健体育理論(前)	114201	長 浜	993
	保健体育理論(後)	114201		622
~~~~~				
三時限	宗 教 学 I	110101	平井(俊)	735
~~~~~				
四時限	論 理 学	110203	国 嶋	306
	~~~~~			
五時限	自然科学概論	110401	宇和川	104
	~~~~~			

正しい記入例

曜日	時限	再履	科目名	科目コード	担任	担任コード
月 (1)	1		ドイツ語1G	112201	百 済	879
	2		保健体育理論(前)	114201	長 浜	993
	3		宗 教 学 I	110101	平井(俊)	735
	4	○	論 理 学	110203	国 嶋	306
	5		自然科学概論	110401	宇和川	104

1. 楷書体で正確に記入すること。
2. 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。
3. 授業時間表のとおり記入すること。
4. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、上に前期終了科目・下に後期終了科目を記入すること。
5. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。
6. 履修届はコンピューターで処理しているため、下記の場合、登録が無効となるので注意すること。
  - イ. 科目名・科目コード、担任名・担任コードが一致しない場合
  - ロ. 時限を誤って記入した場合
  - ハ. 間違い易い数字で記入した場合(例、0と6・1と7)
  - ニ. その他、不明瞭に記入した場合
7. 体育実技の記入方法は、時間表に載っている科目コード・担任コードを正しく記入すること。
8. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。
9. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失しないように保管すること。

### 3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、課程・講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	基礎仏教学，仏書解説Ⅰ（必修）	2
5	一般教育科目	人文分野の開講科目の中から2科目（選択必修）	2
		社会分野の開講科目の中から2科目（選択必修）	2
		自然分野の開講科目の中から1科目（選択必修）	1
1年次履修制限科目数			14

## V 試験および成績評価

### 1. 定期試験

イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月から2月にかけて実施される。

ロ. 試験を受験できる科目は、正規の手続きを経て履修登録した授業科目であること。

ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、主題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上提出すること。なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。

ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。

(注) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は平常時間割と曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等については掲示に十分注意すること。

### 2. 中間試験

授業科目によって担任者が中間考査として任意に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

### 3. 追・再試験

#### I 追試験

イ. 追試験は、やむを得ない事由があり定期試験(レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその事由を記入し、自分の全ての試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示板参照)

ロ. 追試験料は徴収しない。

#### II 再試験

1, 2, 3年次生については、再試験は一切実施しない。

卒業年次生に限り下記により実施する。

イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。

ロ. 受験料は1科目500円とする。

#### III 体育・外国語科目・その他

イ. 体育実技、禅学実習、その他実験実習を伴なう科目は、追、再試験ともこれを行わない。

ロ. 外国語科目についても追、再試験を行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後一週間以内に担任教員に申し出て指導を受ける。

#### 4. 受 験 心 得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日、時、試験場（教場）で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部、学科、学生番号、氏名の記入はペン又はボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ス. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
  - (1) 代人として受験したり、又は代人受験を依頼すること。
  - (2) 使用が許可されていないノート、テキスト、参考書、六法、辞書等を使用すること。
  - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机、壁等への書き込みを利用すること。
  - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
  - (5) 私語及び動作、メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
  - (6) 試験中にノート、テキスト、参考書、六法、辞書等を貸借すること。
  - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
  - (8) その他上記に類似する行為をすること。

#### 5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優（100点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）および不可（59点～0点）とし、優、良、可を合格、不可は不合格とする。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は良（70点）以下とする。

試験実施規程（抜萃）が掲載されている（P. 29）ので参照のこと。

## Ⅵ 進級について

上級学年に進級するためには、進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級及び注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

○注意進級とは、進級の基準単位数には達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。

○修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

修得基準単位表（単位は卒業所要単位のうちとする）

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
59年度以前入学生 進 級	30 単 位 以 上	60 単 位 以 上	90単位以上修得し、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目を全て修得していること。
注 意 進 級	29～20 単 位	59～50 単 位	90単位以上修得しているが、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が1～16単位不足している場合。
原 級 留 置	19 単 位 以 下	49 単 位 以 下	89単位以下。又は90単位以上修得しているが、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が17単位以上不足している場合。
60年度以降入学生 進 級	30 単 位 以 上	60 単 位 以 上	90単位以上修得し、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目を全て修得していること。
注 意 進 級	29～20 単 位	59～50 単 位	90単位以上修得し、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が1～12単位不足している場合。
原 級 留 置	19 単 位 以 下	49 単 位 以 下	89単位以下。又は90単位以上修得しているが、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が13単位以上不足している場合。

○59年度以前入学生についても昭和62年度から「60年度以降入学生適用の進級規程」を一斉に適用するので計画的に単位を修得しておく必要がある。

進級規程及び進級基準が掲載されている（P. 31）ので参照のこと。

## Ⅶ クラス制およびクラス主任

- イ. 1・2年次は学科毎にクラス制をとっている。
- ロ. クラスにはクラス主任（教員）が1名ずつおり、学生の学習指導、生活相談等に当たっているから、これらのことについては遠慮なく相談されたい。

## Ⅷ 教職課程・資格講座

仏教学部で開講されている資格取得の課程講座は、教職課程・学校図書館司書教諭講座、博物館学講座および社会福祉主事講座である。

教職課程は、教員資格取得のためのもので、本学において教職課程の所定単位を修得したものは、中学校1級・高等学校2級の各普通免許状が取得できる。

学校図書館司書教諭、博物館学、および社会福祉主事の各講座は、学校教育を充実することを目的とする学校図書館、社会教育の場として十分に利用され、その目的・使命を達成する博物館および社会福祉を増進させるための機関等の各専門職員となる有資格者を養成するために設けられている。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋（11月中旬）に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。（授業科目の講義内容は、当該履修要項の講義内容を参照すること。）

なお、ガイダンスの日時等については、実施1カ月前より掲示板で、その旨指示する。

○開講されている課程・講座

課程・講座名		備考
教 職 課 程	2年次より	
学校図書館司書教諭講座	”	
博 物 館 学 講 座	”	
社会福祉主事講座	”	

## IX 事務取扱いについて

### 1. 成績発表・成績証明書について

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績発表後5日以内に教務部⑨番窓口にご相談すること。ただし、評価の質疑については直接担任教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は卒業年度生以外は原則として発行しない。

### 2. 授業時間について

授業時間は次表のとおりである。

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00～ 10:30	10:40～ 12:10	12:50～ 14:20	14:30～ 16:00	16:10～ 17:40

### 3. 事務室の事務受付時間について

- イ. 事務室の事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時～13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

### 4. 休講について

- イ. 休講は担任教員より連絡あり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。したがって、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口へ申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については、午前7時現在国電（山手，中央，京浜東北）もしくは東急がストを行っている場合の授業は全面休講とする。

### 5. 掲示について

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

### 6. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

## X 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

種 類		要 領	必要書類	本人印	保証人印	取扱窓口
届	単 位 履 修 届	年度初頭の指定する期日に、各年度に修得しようとする授業科目(単位)を必ず届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	掲示
	欠 試 届	やむを得ない事情で欠試した時は届出用紙に理由を書き、本人履修全科目の試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示参照)	所定用紙あり	不要	不要	⑨
	卒業論文論題届	掲示板にて指示するので、指定期間内に指導教授の承認印を受け、届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	⑥
	改 氏 名 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	⑤
	本籍地変更届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	⑤
	保証人変更届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 在学誓書(保証書)添付	要	要	⑤
	保証人住所変更届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	⑤
	死 亡 届		所定用紙あり 死亡診断書添付		要	⑤
願	休 学 願	病気その他の理由で引き続き2か月以上修学することができない場合は、保証人連署の上、願い出て休学の許可を得なければならない。	所定用紙あり 傷害・疾病による場合は医師の診断書添付	要	要	⑤
	復 学 願	休学した者が復学する場合は、毎学年の始め、保証人連署の上、願い出て許可を得なければならない。「復学願」の提出は4月7日までとする。	所定用紙あり 傷害・疾病による場合は医師の通学可能である証明書添付	要	要	⑤
	退 学 願	傷病その他やむを得ない理由で退学する場合はその理由を付し、保証人連署をもって願い出て許可を得なければならない。	所定用紙あり 学生証添付	要	要	⑤
	転 部 ・ 転 科 願	事前に教務部に相談すること。	所定用紙あり	要	要	⑦

## Ⅺ 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成 績 証 明 書	教務部④番	1 通 100 円 (英文証明書) (1 通 300円)
卒 業 (見 込) 証 明 書		
学 士 証 明 書		
教 員 免 許 状 取 得 見 込 証 明 書		
単 位 修 得 証 明 書 (教職, 司書教諭, 学芸員, 社会教育, 社会福祉)		
一 般 教 養 科 目 修 了 (見 込) 証 明 書		
在 籍 証 明 書 (中途退学者に限る)	教務部⑤番	
人 物 考 査 書	就 職 部	
健 康 診 断 証 明 書	学 生 部 ③ 番	
在 学 証 明 書	学 生 部 ② 番	
学 割		無 料
通 学 証 明 書		無 料

- ※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料は現金で経理部窓口に納入）の上、取扱い窓口に申し込むこと。発行は原則として3日後。  
 教務部取扱い証明書は、6月下旬から10月中旬までと3月は大変混雑するので、掲示に注意し、十分余裕をもって申し込むこと。

## 試験実施規程（抜萃）

（昭和59年7月13日制定）

### （目的）

第1条 この規定は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

### （試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

### （試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
- (2) 追加試験（以下「追試験」という。）病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
- (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
- (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担任者が中間考査として行う試験をいう。

2 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。

3 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。

- (1) 学部1, 2, 3年次生の再試験
- (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
- (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

### （試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担任者の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

### （試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

### （受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
- (2) 授業料その他の学費を納入していること。

- 2 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
- 3 追試験を受験するためには、定期試験修了後速やかに当該授業科目の欠試届及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
- 4 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号の記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点~80点)、良(79点~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附則

1 この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

## 進 級 規 程

(昭和51年4月1日制定)

昭和59年12月18日改正

### (目的)

第1条 この規程は、駒沢大学学則第14条に基づき、学生が上級学年に進級するために必要な修得単位数の基準を定めることを目的とする。

### (進級基準単位数)

第2条 学生が上級学年に進級するときは、卒業所要単位数のうち、次の各号の一に該当する単位数を修得していなければならない。

- (1) 1年から2年に進級するときは、30単位以上修得していること。
- (2) 2年から3年に進級するときは、60単位以上修得していること。
- (3) 3年から4年に進級するときは、仏教学部、文学部、経済学部、経営学部、経済学部第2部、法学部第2部、経営学部第2部においては90単位以上、法学部においては99単位以上を修得していること。ただし、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の所要単位をすべて修得していなければならない。

### (注意進級基準単位数)

第3条 前条の規定にかかわらず、卒業所要単位数のうち、次の各号の一に該当する単位数を修得しているときは、本人に注意を喚起し、上級学年への進級を認めることができる。

- (1) 1年から2年への進級を認めるときは、20単位以上修得していること。
- (2) 2年から3年への進級を認めるときは、50単位以上修得していること。
- (3) 3年から4年への進級を認めるときは、次に掲げる条件の一に該当していること。

ア 仏教学部、文学部、法学部第2部においては、90単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。

イ 経済学部、経営学部、経済学部第2部、経営学部第2部においては、90単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が16単位以下であること。

ウ 法学部においては、99単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。

### (原級)

第4条 修得単位数の合計が、注意進級基準単位数に達しない者は、原級に留め置くものとする。

### 附 則

この規程は、昭和60年4月1日から施行し、昭和60年度入学生から適用する。ただし、昭和59年度以前の入学生については、昭和62年3月31日までは、なお、従前の進級基準によるものとする。

## 進 級 基 準

この基準は、駒沢大学学則第14条に基づき、上級学年に進級する場合の基準を次のように定める。

### (正規進級)

第1条 上級学年に正規進級する場合は、下記の単位数の取得を要する。

1. 1年から2年に進級する場合、卒業所要単位のうち、30単位以上。
2. 2年から3年に進級する場合、卒業所要単位のうち、60単位以上。
3. 3年から4年に進級する場合、卒業所要単位のうち、90単位以上。

ただし、90単位以上の者でも、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の必要単位数を全て取得していること。

### (注意進級)

第2条 正規の進級基準には、達しないが教育的配慮から進級を認める。ただし注意進級が、再度つづく場合には、取得単位の不足から、4年間で卒業することが困難となるので、今後十分に自戒して所定の単位数を取得するよう努めることが必要である。

1. 1年から2年に注意進級する場合、卒業所要単位のうち29～20単位までとする。
2. 2年から3年に注意進級する場合、卒業所要単位のうち59～50単位までとする。
3. 3年から4年に注意進級する場合、卒業所要単位のうち90単位以上を取得するも、その内一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の不合格単位数の合計が1～16単位までとする。

### 付 則

この基準は、昭和51年4月1日より施行する。

## 講義内容目次

一般教育科目(共通).....	(35)
外国語科目(共通).....	(39)
保健体育科目(共通).....	(40)
随意科目(共通).....	(43)
基礎教育科目.....	(46)
専門教育科目.....	(48)
教職および資格講座.....	(59)



## 一 般 教 育 科 目

### 人 文 分 野

宗教学Ⅰ (松本 皓一) .....	37
宗教学Ⅰ (再クラス) (奈良 康明) .....	37
宗教学Ⅰ (再クラス) (岡部 和雄) .....	37
哲 学 (久保 陽一) .....	37
論 理 学 (川戸 好武) .....	37
文 学 (篠原 寿雄) .....	37

### 社 会 分 野

法学憲法 (馬越 道夫) .....	38
経 済 学 (浅田統一郎) .....	38
社 会 学 (角家 文雄) .....	38

### 自 然 分 野

自然科学概論 (齊藤 浩三) .....	38
人 類 学 (中島 寿雄) .....	38
心 理 学 (谷口 泰富) .....	38

## 外 国 語 科 目

英 会 話 (T. C. Dean Pratt) .....	39
--------------------------------	----

## 保 健 体 育 科 目 (共 通)

体 育 実 技 .....	40
---------------	----

## 随 意 科 目

日本宗教文化史 (脇本 平也) .....	43
ドイツ語F (栗原 万修) .....	43
ドイツ語FLL (初級) (松本 洋子) .....	43
ドイツ語FLL (中級) (小林佳世子) .....	43
フランス語F (小玉 齊夫) .....	43
フランス語FLL (初級) (松岡 宏一) .....	43
フランス語FLL (初級) (マドレーヌ・マルタン) .....	43
フランス語FLL (中級) (マドレーヌ・マルタン) .....	43
中国語F (刈間 文俊) .....	44
中国語FLL (初級) (果 莖 英) .....	44
中国語FLL (中級) (羅 濛 明) .....	44
スペイン語F (佐藤 美子) .....	44
スペイン語FLL (初級) (ホワン・ナバロ) .....	44
スペイン語FLL (中級) (ホワン・ナバロ) .....	44

ロシア語F (前期) (杉山 秀子) .....	44
(後期) (岡沢 宏) .....	44
ロシア語FLL (初級) (タチャーナ・バリーソヴァ・野村) .....	44
ロシア語FLL (中級) (タチャーナ・バリーソヴァ・野村) .....	44
日本語F (初級) (留学生対象) (前期) (杉山 秀子) .....	44
(後期) (大塚 純子) .....	44
日本語F (中級) (留学生対象) (大塚 純子) .....	45

## 基 礎 教 育 科 目

基礎仏数学 (伊藤 秀憲) .....	46
基礎仏数学 (皆川 広義) .....	46
基礎仏数学 (峯岸 孝哉) .....	46
仏書解説Ⅰ (新井 勝龍) .....	46
仏書解説Ⅰ (石川 力山) .....	46
仏書解説Ⅰ (石井 修道) .....	46
仏書解説Ⅱ (原田 弘道) .....	46
仏書解説Ⅱ (伊藤 隆寿) .....	47
仏書解説Ⅱ (松本 史朗) .....	47
仏教語解説 (永井 政之) .....	47
仏教語解説 (片山 一良) .....	47
仏教語解説 (池田 魯参) .....	47

## 専 門 教 育 科 目

禅学概論 (黒丸 寛之) .....	48
禅学思想史 (峯岸 孝哉) .....	48
禅宗史Ⅰ (田中 良昭) .....	48
禅宗史Ⅱ (原田 弘道) .....	48
禅学実習Ⅰ (酒井得元・河村孝道・小坂機融) .....	48
禅学実習Ⅱ (鈴木格禅・伊藤秀憲) .....	48
禅学講義 (小坂 機融) .....	48
禅学演習Ⅰ (黒丸 寛之) .....	49
禅学演習Ⅱ (河村 孝道) .....	49
宗典講読Ⅰ (新井 勝龍) .....	49
宗典講読Ⅱ (若月 正吾) .....	49
宗典講義Ⅰ (酒井 得元) .....	49
宗典講義Ⅱ (光地 英学) .....	49
日用経典 (桜井 秀雄) .....	49
禅学特講Ⅰ (原田 弘道) .....	49
禅学特講Ⅱ (鏡島 元隆) .....	50
禅学特講Ⅲ (石井 修道) .....	50
禅学特講Ⅳ (鈴木 格禅) .....	50
禅 特 講 (椎名 宏雄) .....	50

禅学研究(青龍 宗二).....	50	哲学概説(斎藤 知正).....	57
禅籍講義(青龍 宗二).....	50	現代哲学概説(山下 太郎).....	57
詩 偈(山口 晴通).....	50	哲学史(中村友太郎).....	57
禅 美 術(竹内 尚次).....	51	哲学演習(斎藤 知正).....	57
仏教概論(山内 舜雄).....	51	哲学史特講(久保 陽一).....	58
印度仏教史(松本 史朗).....	51	中国文学概論(飯田 利行).....	58
中国仏教史(佐藤 達玄).....	51	中国文学演習(飯田 利行).....	58
印度仏教文化史(奈良 康明).....	51	東洋思想研究(船津 富彦).....	58
日本仏教史(山内 舜雄).....	51	中国哲学史(窪 徳忠).....	58
仏教教理史Ⅰ(印度)(袴谷 憲昭).....	51	心理学概論(篠原 英寿).....	58
仏教教理史Ⅱ(中国)(岡部 和雄).....	52	演習Ⅰ・Ⅱ(松本 史朗).....	58
印度哲学史(田上 太秀).....	52		
経典講読Ⅰ(石川 力山).....	52		
経典講読Ⅱ(岡部 和雄).....	52		
仏典演習Ⅰ(佐藤 達玄).....	52		
仏典演習Ⅰ(平井 俊栄).....	52		
仏典演習Ⅱ(池田 魯参).....	52		
仏典演習Ⅱ(伊藤 隆寿).....	53		
仏典研究(岡部 和雄).....	53		
仏教研究(田上 太秀).....	53		
原始仏教(片山 一良).....	53		
仏教特講Ⅰ(平川 彰).....	53		
仏教特講Ⅱ(細富 常天).....	53		
仏教特講Ⅲ(鎌田 茂雄).....	53		
仏教特講Ⅳ(太田 久紀).....	53		
外国語仏書演習(松本 史朗).....	54		
パーリ語(初級)(福田 孝雄).....	54		
パーリ語(上級)(福田 孝雄).....	54		
パーリ語演習(片山 一良).....	54		
パーリ仏教特講(片山 一良).....	54		
サンスクリット語(初級)(金沢 篤).....	54		
サンスクリット語(上級)(金沢 篤).....	54		
サンスクリット語演習(袴谷 憲昭).....	54		
チベット語(文法)(松本 史朗).....	55		
チベット語(講読)(山口 瑞鳳).....	55		
ラテン語特講(佐藤 玖美子).....	55		
宗教学概論(松本 皓一).....	55		
宗教史(松本 皓一).....	55		
キリスト教史(三小田敏雄).....	55		
キリスト教概論(金井 新二).....	55		
宗教哲学(脇本 平也).....	56		
各宗綱要(日蓮教学)(北川 前肇).....	56		
仏教美術(林 良一).....	56		
仏教民俗学(和田 謙寿).....	56		
宗教教育(松本 皓一).....	56		
宗教行政(桜井 秀雄).....	56		
教化法(皆川 広義).....	56		
青少年教化法(皆川 広義).....	56		
青少年問題研究(和田 謙寿).....	57		
青少年指導演習(和田 謙寿).....	57		

# 一般教育科目

## 人文分野

### 宗教学 I

松本 皓一

宗教のしくみ・宗教の働き、それらを人間と社会及びその接点に織りなされる文化の面から捉えてみる。

なぜ人間は宗教を求めるのか、宗教はこの人間の欲求に、どれだけ応えているのか、将来も人間は宗教に願いを寄せるだろうか、将来も宗教は人間の問題に答えるものをもち続けるだろうか等々の点を中心に、宗教全般の理解を明らかにすることは、仏教、禅を理解する基礎としても大切だと思う。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』

〔参考書〕 『宗教学 I』

### 宗教学 I (再クラス)

奈良 康明

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)

『仏教のおしえ』(東京書籍)

### 宗教学 I (再クラス)

岡部 和雄

前半では宗教とは何かという問題を現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)、『仏教の歩んだ道 I』(東京書籍)

### 哲学

久保 陽一

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのか自覚がない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならず、そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識にも努める。

〔教科書〕 『哲学思想の歴史』(公論社)

### 論理学

川戸 好武

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考するべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむろんのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得をする。

〔教科書・参考書〕 その都度指示する。

### 文学

篠原 寿雄

より知的生活を目指す人間は、書かれたもの(書物)を正しく読み味わうことが要求される。このために多くの作品に直接あたって、その読み方などを学びとることは何にもまして大切である。そこでこの講座では、これからの研究に欠くことのできない基礎教養を目ざして、中国の古典一邦人の作品も一をえらんで文学として鑑賞すると共に、その訓読法を学び、将来、漢訳教典・禅録を研究する一助にしたい。とくにすぐれた文学作品を通

して、唐宋の俗語をも学び、禅録研究にも資したい。  
〔教科書〕『典座教訓』（大蔵出版）プリント、他は随時示す。

## 社会分野

### 法学憲法

馬越道夫

「社会あるところ法あり」という法諺は法が社会秩序を保持するための不可欠の手段であることを物語っている。今日社会は多元化し、法もまた複雑化している。本講は社会のかかる現状をふまえ、判例等の具体例を通じ憲法の基礎理論及び諸法の一般理念について講義したい。限られた時間を有効に使用するため、受講生は予習をすることを期待します。

〔教科書〕『新訂 法学概論』北島照明編（法学書院）

### 経済学

浅田統一郎

本講義では、以下の順序に従ってマクロ経済学の基礎知識を体系的かつ平易に解説する。尚、時間的な余裕があれば、ミクロ経済学についても言及したい。

1. 国民所得の概念
2. 国民所得決定の理論
3. 財政・金融政策の効果
4. 物価水準の決定とインフレーションの理論
5. 開放体系のマクロ経済学
6. マクロ分配理論
7. 景気変動と経済成長の理論

〔教科書〕熊谷尚夫『経済原論』（岩波書店）

〔参考書〕M・カレツキ『資本主義経済の動態理論』浅田統一郎・間宮陽介訳、（日本経済評論社）

### 社会学

角家文雄

社会学の基礎理論と、その応用として教育社会学、マス・コミ社会学を講義する。

〔教科書〕『昭和時代』（学陽書房）¥1,200

## 自然分野

### 自然科学概論

斉藤浩三

まず、地球の構成ならびに性状を概述し、ついで地圏・水圏・気圏にまたがる諸事象のうち、われわれの生活に大きな影響をおよぼす大気汚染、水質汚濁などの環境問題や自然災害の実態をさぐり、さらにこれらの防止技術の現状について講義する。

### 人類学

中島寿雄

一般教育の人類学の講義は、広範な領域を包括するこの学問の性格のため、とかく散漫になりやすいので、年間30回に限られた講義においては、題目をしぼって集中的に行なうことも一法である。本年は「性」を中心として講ずるが、これは性が年齢とともに人類学上の重要な指標であり、人類学のほとんど全範囲を被りうるからである。性の問題を明らかにしながら、さらに、人類学にとって最も重要な課題の一つである「人類起源」を、とりわけ社会起源との関連において講じたい。

〔教科書〕ノートを用いて講義するので教科書は用いない

〔参考書〕講義中に適時指示する

### 心理学

谷口泰富

本講においては、次のような内容について説明する。

- (1) 心理学とは何か
- (2) 環境の認知
- (3) 行動の変容
- (4) 人格の構造
- (5) その他

〔教科書〕『心理学概説』中村昭之編 八千代出版

# 外国語科目

英 会 話

T.C. Dean Pratt

English conversation necessary for everyday life. Native speaker word-group sound. Also discussion on current life, Japan and the world. Each student is required to give a speech or tell a story. Original, Limit 5 Minutes.

# 保健体育科目(共通)

## 実技種目の概要及び指導教員名

### 一年次種目〈玉川校舎〉

室内球技(玉川体育館)  
宮沢 栄作・光永 吉輝  
村松 誠・久保田洋一  
関本美津子

バレーボール, バスケットの基礎技術の習得とともに,  
ゲームにより, その競技を理解する。

服装: 一般的運動服装, 上履用シューズ

体 操(玉川体育館)  
竹 田 幸 夫

マット, 鉄棒などを中心に, 初心者を対象とした遊戯  
的内容から出発し, 段階的に技を習得する。

服装: 一般的運動服装, 体操シューズが望ましい。

トレーニング(玉川体育館)  
田中 佳孝・高森 秀蔵  
武藤 幸政

個人の体力差に応じたトレーニングプランを作成し,  
主に最新のトレーニング器械を使用した体力トレーニング  
を行う。このトレーニングの目的は体力の増進, 内臓  
器官の強化である。

服装: 一般的運動服装, 上履用シューズ

柔 道(玉川体育館)  
光 永 吉 輝

初心者を対象として基本技能(受け身), 応用技能(投  
げの形)(固の形)等の練習を行う。服装は原則として  
柔道衣。

剣 道(玉川体育館)  
上 山 智 身

剣禅一致の精神に基き, 初心者を対象として次の順序  
で実施する。

1. 基本動作 2. わざ 3. 懸り稽古, 互格稽  
古 4. 試合稽古

服装・試験については最初の授業において説明する。

空 手 道(玉川体育館)  
大石 武士・高橋 俊介

拳禅一致の精神に基き, 初心者を対象として下記の順  
序で実施する。

1. 基本技(空気を相手に, 受, 突, 打, 蹴技の反復  
練習)  
2. 形(基本の受, 突, 打, 蹴を合理的に構成したも  
のを空気を相手に行う)  
3. 護身術  
4. 約束基本組手(基本技で取得した, 受, 突, 打,  
蹴技を実際に相手をおいて行う簡単な約束した組  
手)

服装は原則として空手道衣着用のこと。

相 撲(玉川体育館)  
館 岡 儀 秋

基本技(攻の型・守りの型)の練習を主に, 併せて応  
用技の習得を行い, 心・技・体三則の本義を理解させる  
様指導する。

土俵マットを使用する。服装は海水パンツ等の上に相  
撲パンツを着用する。

陸 上 競 技(玉川グラウンド)  
森 本 葵

駒大式四種競技(100米, 長距離, 砲丸投, 走高跳)

を行い、得点制とする。

服装はランニングパンツが望ましいが、普通のトレパンでも可。なお、スパイクの着用は原則として認めない。

ソフトボール (玉川グラウンド)  
太田 誠・原山 良勁  
竹田 幸夫・幸前 芳孝

基本技能を中心として毎時間ゲームを行う。服装はトレシャツ、トレパン。グラブ、ミットは貸与する。

サッカー (玉川グラウンド)  
秋田 浩一

基本技術を中心として練習し、毎時間ゲームを行う。服装はショートパンツと厚い靴下を着用すること。

ハンドボール (玉川グラウンド)  
村松 誠

パス、シュート等基本技術を中心にゲームを行う。服装は、トレシャツ、トレパン、運動靴を用意すること。

テニス (玉川グラウンド)  
牧野 茂・田中 佳孝  
高橋 俊介・浅野 鉦世

ゲーム (ダブルス) 中心の授業を行う。服装は、一般的運動服装 (白のトレーニングパンツまたは短パンツが望ましい) とするが、靴はテニスシューズを用意すること。

卓球 (玉川校舎)  
原山 良勁・宮沢 栄作  
村松 誠・秋田 浩一  
関本美津子・幸前 芳孝

ゲーム (シングル, ダブルス) 中心の授業を行う。服装は体育時のもので良い。室内履シューズを用意すること。ラケットは貸与する。

太極拳 (玉川体育館)  
大石 武士

太極拳の基本的な動きを習得し、精神・身体の健康を増進する。服装その他の注意は第一時限目に説明する。

ゴルフ (玉川グラウンド)  
三幣 晴三・館岡 儀秋

ゴルフスイングの基礎技術の習得とともに、ゴルフで最も肝要とされるルールとマナーの基本的理解により、正しいゴルフの精神を身につける。服装は一般的運動服装とする。

## 実技教場案内

玉川体育館・グラウンド・校舎:  
世田谷区宇奈根1-1-1 (学生手帳を参照)  
TEL (709) 0717 保健体育部

## 再履修生種目〈本校〉

室内球技 (本校体育館)  
三幣 晴三・森本 葵  
竹田 幸夫

基礎技術の習得とに併せて、ゲームにより、その競技を理解する。(バレーボール, バスケットボール, その他)

服装: 一般的運動服装, 上履用運動靴。

大 極 拳 (本校第二体育館)

大 石 武 士

大極拳の基本的な動きを習得し、精神・身体を健康を増進する。服装その他の注意は第一時限目に説明する。

剣 道 (本校第二体育館)

上 山 智 身

剣道一致の精神に基き、初心者を対象として実施する。服装・試験については最初の授業において説明する。

実 技 教 場 案 内

- (1) 本校体育館：本学内、男子更衣は三階東側スタンド（ステージに向い左側）。女子は三階西側の更衣室（ステージに向い右側）。  
TEL (418) 9517・9213 体育教員室
- (2) 本校第二体育館：本学内、相撲道場の隣、一階は柔道場、二階は剣道・空手道場。更衣室は各階にある。  
TEL (418) 9201 体育教員室

# 随 意 科 目

## 日本宗教文化史

脇 本 平 也

—宗教思想論争—昨年度に引き続き、日本における宗教思想の対立・論争の事例をいくつか取り上げ、文化史的背景を考慮しながらながめてみる。原史料を読む場合には、演習形式を取り入れて学生諸君にも分担を課することがある。

〔参考書〕 適時指示する。

## ドイツ語 F

栗 原 万 修

昨年につづきドイツと日本の民話をドイツ語で読みながら、さらにいろいろな資料を参考にして、民話の本質を考察したい。テキストおよび資料はその都度配布する(無料)。

## ドイツ語 FLL (初級)

松 本 洋 子

基本的な文型や語彙を身につけ、簡単な日常会話が出来るようにしていきたい。またビデオやテープを用いて、生きたドイツ語を聴きとる能力をつけていきたいと思う。

〔教科書〕 テキストはその都度配布するが、無料。

## ドイツ語 FLL (中級)

小 林 佳 世 子

一年次のドイツ語(1G, 1R)を終えた者を対象に、ビデオテープ等の視聴覚教材を用いて様々な生きたドイツ語に触れ、聴き取り能力を高めること、また基本的な文型や語彙を身につけ、それを応用してドイツ語の表現力を養うことを主な目的とする。さらにドイツ語の背景にある風俗習慣や文化、歴史等にも目を向けるようにしたい。

〔教科書〕 適宜プリントを配布する。

## フランス語 F

小 玉 齊 夫

3年ほど前に、フランスの現代思想に関して、およそ1900年から1940年ほどまでの流れを、概略、辿ってきましたので、今年度は、その延長として、1950年代以降の思想(さまざまな領域での)の展開を眺め、把握を試みる予定です。教材・資料は、講義のたびに、適宜、指示しますが、解説書と原著とを併用します。フランス語の読解力は、あるにこしたことはありませんが、特にこだわりません。

## フランス語 FLL (初級)

松 岡 宏 一

”Le Français et la Vie” を教材として用いる予定です。スライド画面とテープの音とを併用して、基礎的な表現能力を養成したいと思います。会話は、音を真似ることから始められなければならないので、積極的に授業に参加し、フランス語を聞いたり話すことに慣れるようにして下さい。また、途中であきらめることなく、一年をとおして出席し、少しでも「フランス語」の中に入りこむことができるように、希望したいと思います。テキストは教場で配布します。

〔教科書〕 ”Le Français et la Vie”

## フランス語 FLL (初級)

マドレーヌ・マルタン

”De Vive Voix” を教材とし、その第1課から、実用的なフランス語の会話練習をします。さまざまな状況に応じた表現に慣れ、基礎的なちからを養うことを目的とします。テキストは教室で配布します。

〔教科書〕 ”De Vive Voix”

## フランス語 FLL (中級)

マドレーヌ・マルタン

初級クラスと同じ方法で、”De Vive Voix” の第5課から(履修学生の語学力によって多少の変更はあります)

始めます。より一般的なフランス語会話の習得をめざします。

〔教科書〕 "De Vive Voix"

### 中国語 F

刈 間 文 俊

中国語を二年次まで学んだものを主たる対象とし、文学作品の講読を通してより上のレベルへの向上を目的とする。ここ数年来の新しい作品を選び、文学言語としての中国語の可能性も考察したい。

〔教科書〕 教場にてプリントを配布する。

### 中国語 FLL (初級)

果 荃 英

中国語初級を終えたものを主たる対象とし、正確な発音をマスターし、やさしい中国語の会話を習得することを目的とする。視聴覚教材を使用して楽しく授業を進めたいと思う。

〔教科書〕 教場にて視聴覚教材のコピーを配布する。

### 中国語 FLL (中級)

羅 漾 明

中国語 FLL 初級を終えたもの、又は中国語を一年以上履修したものを対象とする。会話を中心として授業を進めます。映画・録音なども教材として使用します。

テキスト：必要に応じて、教場でプリントを配ります。

### スペイン語 F

佐 藤 玖 美 子

本講座は、1・2年で習得した知識を更に発展、深化させることを目指すものです。特に読解力と作文力の養成に力を入れたいと思います。テキストとしては、ワントン・アービングの"アルハンブラ物語"のスペイン語訳を予定しています。

### スペイン語 FLL (初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。

### スペイン語 FLL (中級)

ホワン・ナバロ

前年度 LL 初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

### ロシア語 F

(前期) 杉山 秀子  
(後期) 岡沢 宏

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力の養成を目標とする。名文といわれる様々なスタイルのロシア語の文章に接することにより、ロシア語のもつメリハリのある美しさと力強さを味わっていただきたいと思う。

〔教科書〕 教場にて指示します。

### ロシア語 FLL (初級)

タチャーナ・バリーソヴナ・野村

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し簡単なロシア語の表現力を身につけることを目的とする。

〔教科書〕 『ロシア語を話しましょう』を使用する。

### ロシア語 FLL (中級)

タチャーナ・バリーソヴナ・野村

初級課程で得た知識を土台に更にロシア語独特な生の言いまわしや、日常会話の平均的速度になれてもらい、自由な発話への第一歩となる様に心がけていきたい。

〔教科書〕 教場にて指示。

### 日本語 F (初級) (留学生対象)

前期 杉山 秀子  
後期 大塚 純子

本講座は昭和57年度に初めて設置された留学生のための日本語の随意科目である。日常生活における意志伝達にはさほど苦労しないが、若干こみいった内容の聴きとりや説明、正しい表記・用語法などに困難を感じている留学生諸君は是非受講されることが望ましい。なお、受

講者の日本語のレベルもバラバラであると予想されるので、授業の最初に簡単なアンケートとテストに答えてもらい、その後に細目について詳しく説明する。授業では最新の日本語教育用のビデオやスライド等を駆使しつつ、現代生活に密着した正しい日本語を修得することを旨としていきたい。

〔教科書〕 面談の上決定します。

日本語 F（中級）（留学生対象）

大塚 純子

日本語 F の初級課程を終えたもの、あるいはそれと同等の学力を有する留学生を対象とし、日本語での発表能力や、表記・表現法をさらに高め、深化させていく。授業では適時、新聞・雑誌の読みあわせや、NHK の教養番組の聴きとり、ニュース解説、日本映画等のビデオ録画をとりあげて、偏りのない日本語の総合力を身につけることをめざしたい。

一週間に一度は必ず小テストをし、レポートの提出を義務づけるので授業はなるべく休まないこと。

〔教科書〕 教場にて指示します。

# 基礎教育科目

## 基礎仏教学

伊藤秀憲

基礎仏教学では、一仏両祖——仏教を開いた釈尊と日本曹洞宗の高祖道元禪師と太祖瑩山禪師——の生涯と思想について講義する。禅学の学習には漢文の読解力が不可欠である。基本的な文献を読みつつ講義を進めて行きたい。

〔教科書〕 プリント配布

## 基礎仏教学

皆川広義

仏教の開祖釈尊と日本曹洞宗の両祖道元禪師と瑩山禪師の生涯と教えについて学び、仏教の基礎を把握したい。とくに釈尊の根本教理をふまえて、その発展である両祖の教理を体系的に考察してゆきたい。

〔参考書〕 増谷文雄著『仏教の根本聖典』（大蔵出版）  
山折哲雄著『道元』（清水書院）

## 基礎仏教学

峯岸孝哉

ここにいう「基礎仏教学」とは、「一仏両祖伝」を内容としている。つまり仏教を開いた釈尊と日本曹洞宗の開祖永平道元禪師、曹洞教団展開の礎を築かれた瑩山紹欽禪師の生涯を学ぶものである。この「一仏両祖」は曹洞宗の信仰の根源であるばかりでなく、広く人類に開かれた偉大な宗教家であるために、関説された文献も数多く存在する。そこで今日までの主な参考文献を紹介しながら、それぞれのご生涯をたどってみよう。

〔教科書〕 プリント使用  
〔参考書〕 随時指示する。

## 仏書解説Ⅰ

新井勝龍

中国語で生成し日本で熟成した禅の代表的典籍を、史伝、語録、清規等に分類しながら、年代を遡って説明してゆく。

〔教科書〕 コピーによる

〔参考書〕 『禅籍解題』（『禅家語録』（筑摩書房）

## 仏書解説Ⅰ

石川力山

聖僕義諦の撰述した『禅籍志』2巻は、中国、日本で成立した禅宗関係の典籍を漢文で解説批評したものである。この授業は、禅宗関係典籍の解説を講ずるものであるが、これから4年間仏教を学んでいくために必要不可欠な漢文読解力を養うことも意図して、『禅籍志』の中の主要な部分を読み進めながら説明を加えていく。

〔教科書〕 プリント使用

〔参考書〕 『禅家語録-禅籍解題-』（筑摩書房）、  
『禅学大辞典』（大修館書店）

## 仏書解説Ⅰ

石井修道

仏教や禅について深い専門的な知識を学ぶにあたって、この講座は一年生が広く禅籍について知る講座である。「広」から「深」へ自主的に学べるように、その道案内をするために、沢山の禅籍について触れてみたい。漢文を読むための慣のためにも『禅籍志』二巻を中心に講義を進めて行きたい。禅籍244部について解説したこの著は、最も便利であり、2年3年と進んでもふりかえって参考になるものである。この書で不足する禅籍については補足して説明する。

一つの願いは、授業で取り挙げた禅籍を是非図書館に行って、その現物に触れていただきたいことである。

〔教科書〕 『禅籍志』を担当者でコピーして配布する。

〔参考書〕 『禅家語録Ⅱ』（筑摩書房）、『禅語録』（世界の名著・続・3）（中央公論社）

## 仏書解説Ⅱ

原田弘道

印度・中国・日本における各種仏教典籍の中から、代表的なものを選び、それぞれの経典の占める位置・特色・影響などについて解説し、全体的、体系的な理解を目

指す。

〔教科書〕『仏典解題事典』（春秋社）¥3,800

## 仏書解説Ⅱ

伊藤隆寿

仏典の成立、大蔵経の系譜（セイロン三蔵・チベット大蔵経・漢訳大蔵経）について概説し、次に主要經典の内容及び注釈書について述べる。

〔参考書〕『仏典解題事典』（春秋社）

## 仏書解説Ⅱ

松本史朗

インド・チベット・中国・日本等の禅籍を除いた仏教書について解説する。特に仏教の歴史的・思想的展開に留意し、仏教研究の基礎知識を修得できるようにしたい。

〔教科書〕『仏典解題事典』（春秋社）

## 仏教語解説

永井政之

宋の道誠による『釈氏要覧』を読む。本書は、二七章より成る。いずれも初歩的な仏教用語を、典拠をふまえて略述したもので、いわば中国僧の手になる仏教辞典である。大正蔵経54巻に収録され、国訳もあるので比較的読み易い。仏教用語の理解と、あわせて漢文読解の力を養う。

〔教科書〕原典についてはコピーを配布する。

〔参考書〕宇井伯寿『仏教辞典』（大東出版）

¥3,800 水野弘元『仏教要語の基礎知識』（春秋社）

## 仏教語解説

片山一良

言葉が難しいという場合、一般的に言えば、こちらが無知であるか、或いは意味が深いかである。仏教語は往々にして内容が濃い。仏教の平易な、しかも今日的な理解を目指し、身近な例を示しつつ、広い角度からその重要語を解説する。

〔参考書〕水野弘元『仏教要語の基礎知識』（春秋社）

## 仏教語解説

池田魯参

仏教語は、たとえば、檀那様、精進料理、阿弥陀くじ、阿修羅のごとく等というように、現代でも日常語として使われている。

本講は、これら仏教語が派生して来た原初の教えの体系組織がどのような構造のものであったのかを考えて、これから仏教諸教学を学習するために必要な、基礎用語、専門用語の意味の原形を修得していただく。

〔教科書〕水野弘元『仏教要語の基礎知識』（春秋社）

# 専 門 教 育 科 目

## 禅学概論

黒丸寛之

釈尊の成正覚を起源として、インド・中国・日本に展開した禅仏教の歴史と思想、戒律と文化、および禅の現代的意義（心と身体・自然と存在・社会と生活等に関する禅の見解）について講述する。

## 禅学思想史

峯岸孝哉

日本曹洞宗の思想的展開をたどり、その歴史的 성격について考える。この背景として重要な意味をもつ教団の展開には十分考慮したい。

〔参考書〕『道元禅の歴史』〔講座道元Ⅱ〕（春秋社）

## 禅宗史Ⅰ

田中良昭

禅宗史Ⅰは、中国禅宗史をその内容とする。釈尊以来仏教の実践道とされた禅が中国へ伝来し、菩提達摩を初祖とする系統が、中国固有の思想や他の仏教諸宗と交渉しつつ、独自の中国禅宗を形成し、後には中国仏教の主流を占めるまでに発展した。そこで授業では、達摩渡来以前を導入とし、以下達摩の渡来から禅宗の成立までの成立の歴史と、禅宗が五家七宗に分かれて各々その特色を発揮する発展の歴史とを考察する。

## 禅宗史Ⅱ

原田弘道

禅宗史Ⅱの内容は日本禅宗史である。

我国に伝来した禅は、その主流となって類型を異にするものが五つあったと考えられる。これらを中心にして禅宗の発展の歴史を考察する。内容は伝来、受容・発展の実態とその思想史的意義の両面からとりあげてゆく。

〔参考書〕講座禅第四巻『禅の歴史-日本-』（筑摩書房）

鈴木泰山『禅宗の地方発展』（吉川弘文館）

## 禅学実習Ⅰ

酒井 得元・河村 孝道  
小坂 機融

禅学は坐禅を根本とする宗教の学問的作業である。しかし学究のみではあくまでも万全ではない。究極はむしろ禅学の根本を実修する坐禅にこそ求められなければならない。禅学する者に坐禅が常に厳しく実修されないなら真の禅学とは言えない。従って本講座は坐禅堂における入堂・坐禅・経行・提唱・出堂の一切が厳粛に遂行されるが、このためには次の基本的心構えが必要である。

1. 時間厳守(始鈴十分前に全員入堂端坐、遅刻不許)
2. 威儀服装の整備(規定の作法に順い厳粛かつ清楚)
3. 懈怠厳禁(自ら怠惰を戒め毎時間真摯に精励する)

なお、(1)追再試等による救済措置は全くない。(2)特に新学期最初の授業は、坐禅堂における進退作法並びに席次等重要事項を指示するので必ず出席すること。

〔教科書〕『普勸坐禅儀』『正法眼蔵坐禅儀』『経行軌』等配布。

## 禅学実習Ⅱ

鈴木 格禅・伊藤 秀憲

一講時を二分し、前半は専ら只管打坐、経行を挿んで後半を『坐禅用心記』の提唱にあてる。授業の実施要領および基本的心構え等については、「禅学実習Ⅰ」に全く同じ。

講本は全員同じものを使用することが望ましいので、下記の要領にしたがってほしい。

遅刻を認めず、追再試あるいはレポート提出等による救済措置は一切講じられないから、このことを予めよく承知しておくこと。

〔教科書〕『曹洞宗全書』宗源（下）。423頁～427頁までをコピーし、厚目の表紙をつけ、指示にしたがって、学科学年・単番号・氏名を、大きく明記すること。

## 禅学講義

小坂 機融

中国禅宗成立初期の語録中、禅旨を詩文によって表詮した『参同契』・『宝鏡三昧』・『証道歌』について順次講

義する。まずこれら語録の成立流伝の歴史的背景を考察し、その上で当該語録について講じ、各祖師の挙揚した宗義宗風を明らかにする。今年度は、『証道歌』を中心に講義する。

〔教科書〕『冠註証道歌』（教場で指示）。

〔参考書〕『曹洞禅講義』、『禅の語録16』、『講座禅第六巻』。

## 禅学演習Ⅰ

黒丸寛之

『碧巖録』・『従容録』・『無門関』をそれぞれ1年毎に講読して、公案禅の世界を見ながら禅学の特質を学ぶ。講本は、開講のときに指定する。

## 禅学演習Ⅱ

河村孝道

『永平語録』・『洞山録』・『臨濟録』の祖組録を一年ずつ講読演習してゆくもので、演習を通して祖録参究の視点と禅語への慣熟、および各祖師の人格とその宗風の把握とを主目的とする。

〔教科書〕 教場で指示する。

## 宗典講読Ⅰ

新井勝龍

道元禅師親撰『学道用心集』を講読する。正法眼蔵が本証妙修の本証面に比重があるとすれば、学道用心集は妙修面に強調点があり、全篇を修行の心得として十章に分け組織的に示されたものである。

従って小篇ではあるが、日本曹洞宗の学道の枢要が述べられている。また説示が簡明であるため、古くから曹洞禅入門のテキストとして用いられてきた。本学で禅学科の必修最初の講座におかれているのも、この伝統をうけているからである。

講読に際しては、始めに史的ないし書誌的に本書の位置づけをし、ついで思想的に道元禅師の根本思想である一方究尽、本証妙修の道理をほりさげてゆきたい。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 岸沢惟安老師提唱『学道用心集講義』増永靈鳳『学道の用心』

## 宗典講読Ⅱ

若月正吾

前段においては、中国における清規の歴史とその概要を講述し、さらに道元禅師の清規の特異性を明らかにする。後段においては、テキスト『永平元禅師清規』を使用して『典座教訓』・『衆寮清規』について講義する。

〔教科書〕『永平元禅師清規』 教場で指示する。

## 宗典講義Ⅰ

酒井得元

この講座では道元禅師の主著である正法眼蔵を講義する。本年度は、その中の「栢樹子」「三界唯心」「説心説性」の巻を講ずる予定である。使用テキストは当方で用意があるので配布する。しかし本学生は必ず正法眼蔵の全巻の所持が望ましい。それには次の諸本が出版されている。

『本山版 正法眼蔵』（鴻盟社）『道元禅師全集上巻』（筑摩書房）『道元・日本思想大系上下』（岩波書店）

## 宗典講義Ⅱ

光地英学

太祖瑩山禅師撰『伝光録』をテキストとする。講義内容は次の如くである。太祖の生涯・全撰述概説、伝光録の書誌学的考察、伝光録の構成と中心思想、本文講解。

〔教科書〕『冠註 瑩山禅師「伝光録」光地教授』（学内、駒沢書店販売店）¥3,200

## 日用経典

桜井秀雄

曹洞宗常用経典・祖典の解題、および回向文と各種疏などに表われる文意の解明を通して、実践宗学の実際を究明する。

〔教科書〕 桜井秀雄『曹洞宗回向文講義』¥700

『統曹洞宗回向文講義』¥700

## 禅学特講Ⅰ

原田弘道

公案禅の成立発展と日本禅

公案禅（看話禅）が成立したのは宋代である。叢林の

性格変化がこれをうながしたといつてよい。この問題に関し、叢林の社会経済的背景、叢林の性格変化、叢林の運営理念の変化とその実際、修行観の変化、禅思想の変化等多角的有機的な連関のもとに究明して、その成立の意義を明らかにする。次に道元禅と公案禅、および日本における曹洞宗と臨済宗についても、同様の視点から取りあげて両宗の立場を明らかにしてゆきたい。

公案の意義、公案の起源と歴史、禅思想および叢林の性格変化、公案禅の成立、公案禅と黙照禅、宋朝禅と道元禅、曹洞宗と臨済宗等大略以上の順序で講義を進める。

### 禅学特講 II

鏡島元隆

禅学思想史——とくに禅戒・清規を中心に——

インド・中国・日本の戒律思想を概観し、それと禅宗との交渉、禅戒・清規の発生と展開について述べる。

### 禅学特講 III

石井修道

唐代と宋代の基本的な禅籍を隔年で演習して行きたいと考えている。今年度は、中国曹洞宗の教団史の基本資料を学び、現在の中国禅宗史の研究の動向をみてみたい。洞山良价・雲居道膺をはじめ、宋代の芙蓉・丹霞・真歇・宏智・大休・足庵等の塔銘類を読むことにしよう。むずかしい漢文ではあるが、基本資料の解説なしには新知見は得られない。是非、一字一字を丹念に辞書で引いて演習に参加して欲しい。

〔教科書〕 文献をコピーで配布する

〔参考書〕 『禅、I』(平河出版社)

### 禅学特講 IV

鈴木格禅

懐非撰『光明蔵三昧』講読

孤雲懐非は「一日も師ヲハナレズ、影ノ形ニシタガフガ如ク」道元禅師に随侍した高弟であり、その一生を、禅師の弘法伝持のために捧げた至誠の道人である。

『光明蔵三昧』一巻は、その懐非の唯一の撰述であり、児孫をして、只管打坐の必要を誤らしめんがためにのみ著わされたものだという。今年度はこの書について、その宗要を学んでゆきたいと思う。

〔教科書〕 『曹洞宗全書』(室中・法語・金石分類)

P219—P232までをコピーすること。

### 禅特講

椎名宏雄

禅宗カナ法語の講読

本年度は、日本曹洞宗初期の作品、すなわち、瑩山・明峰・峨山・大智たちのカナ法語を読む。

仏教の深い思想を道俗に対して平易に説きあかすため、カナ文字であらわしたカナ法語は、漢文の語録にくらべて、より具体的であり、思想的表現が豊かであるという特長をもつ。禅門にはこの種の作品が多くのごさされている。いったい、初期の洞門の禅匠たちは、道俗たちに対して、これまで未知の曹洞禅をどう語り、いかに布教したのだろうか。こうした点を味わいたい。

〔教科書〕 プリント資料を配布する。

### 禅学研究

青龍宗二

この講座は必修科目の時から内容が規定されているので、それを継承してゆくが、その内容とは宗意・禅戒・清規のいわゆる曹洞宗の根本教学である。その意味で宗学を専攻する者は必然的に参究しなければならない宗学上の主要課題である。

そのため宗意の根本基調である本証妙修の教理的構造を分析して、その意義を理解せしめると共に、本証の妙修としての禅戒・清規思想を参究してゆく。

〔参考書〕 教場で指示する。

### 禅籍講義

青龍宗二

中国禅籍を講読してゆく。特に宗学の立場から、六祖壇経および南嶽下の禅語録を中心として、その原意を把握しながら、中国禅確立期の特異性および道元禅との異同を明らかにする。

〔教科書〕 熾焯本『六祖壇経』(コピーを配布)

〔参考書〕 教場で指示する。

### 詩偈

山口晴通

「詩禅一如」の観点に立脚して、テキストを中心に、関係方面の漢詩を読み、かつ、初歩的な「漢詩の作り方」を学習する。

本講座を履修する者は、「漢和辞典」を必携のこと。その種類については、授業中に指示説明をする。

〔教科書〕 山口晴通著『詩偈入門』〔上〕(曹洞宗宗務庁発行) ¥1,000

〔参考書〕『漢和辞典』

## 禅美術

竹内尚次

禅林美術の本質について考えてみる。禅林美術は禅林(禅宗教団)から自然に発生して中国の宋および元の時代に独自の展開を見せ、また我国では鎌倉時代末期から室町時代を通して開花した。禅そのものとは明確に区別することによって、禅の表白が禅林美術であるとする従来の思考の誤りを、正さなくてはならない。まず、曹洞宗の高僧風外慧薫、風外本高禅師の画事から始めて、禅林絵画・禅林墨蹟の本質について検証し、東洋美術史のなかに於てのその位置を確かめることができれば幸である。なお、ここに採用する美術品は、国宝・重要文化財を中心とする。さて、これらの作品を、折にふれて目で直接見て取ることが、大切である。

〔教科書〕『思想の群馬(風外慧薫)』(あさを社)  
¥800

〔参考書〕『夢窓国師』玉村竹二著平(楽寺書店)  
¥2,200

## 仏教概論

山内舜雄

仏身論、成道論、本尊論を中心に、仏教成立の思想的根底を体系的に概述して、仏教全般のアウトラインを明示すると共に、中国成立の仏教教学の主要なものの解説を教理的にこころみ、以て、日本仏教における各宗教学との関係を明確にし、インド、中国、日本と三国にわたる仏教の思想的理解を体系的に把握させることを目的とする。

〔教科書〕ノート講義

## 印度仏教史

松本史朗

インド仏教の通史を教団史・思想史の観点から講義する。

〔教科書〕『仏教史概説』(平楽寺書店)

〔参考書〕平川 彰『インド仏教史』〔上・下〕(春秋社) 奈良康明『仏教史Ⅰ』(山川出版社)

## 中国仏教史

佐藤達玄

隋唐時代以降の中国仏教の流れを中心に考究したい。

〔教科書〕『仏教史概説・中国篇』(平楽寺書店発行)

## 印度仏教文化史

奈良康明

いかなる社会であれ、その成員により獲得され、習熟され、伝達されてゆく諸観念や慣習、儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても、例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の一側面を明らかにするものであることは疑わない。そうした高いレベルの観念や行法を一方におきつつ、他方に、各種民間信仰的な諸観念や儀礼、生活慣習等、日常レベルの生活様式を考察し、且つ、両レベルのかかわりあいとみるにはじめて仏教文化が全的なすがたでとらえられるのではないか。本講座はこうした視座からインドの社会、宗教とかかわらせつつ、仏教文化の歴史にアプローチをこころみる。

〔参考書〕辛島昇編『インド入門』(東大出版会)  
奈良康明『仏教史Ⅰ—インド、東南アジア—』(山川出版)

## 日本仏教史

山内舜雄

日本仏教史を、上代から主として奈良時代、中世は天台・真言の顕密両教を中心に、鎌倉仏教興起までを概説する。ことに慧檀二流の本覚法門を背景に、鎌倉新仏教の成立過程を詳説する。

〔教科書〕『日本仏教概史』宇井伯寿著(岩波書店)

## 仏教教理史Ⅰ(印度)

袴谷憲昭

インドにおける仏教教理の展開を歴史的に講義する。釈尊によって提起された問題の思想史的意義を考察することから始め、それ以降のインド教理史上の問題を重点的に取上げて講義する。以下に示した教科書は、必須課目としての最小限の知識の目安として提示したものであ

るから、そのみで決して満足しないでもらいたい。教  
理史上の問題点として考えるべき方向性等は、講義にて  
具体的に指示する。

〔教科書〕『宗教学Ⅰ』（更生社）の第2部『インド  
の仏教』

### 仏教教理史Ⅱ（中国）

岡 部 和 雄

インド仏教がどのようにして中国仏教へと展開してい  
くかは、さまざまな観点から分析・研究されなければな  
らないが、ここでは教理の歴史的展開を中心としてこの  
問題を考えてみたい。

〔参考書〕 鎌田茂雄『中国仏教史』第一巻～第三巻  
（東大出版会）

### 印度哲学史

田 上 太 秀

インダス文明から説き起し、ヴェーダ文献にみられる  
インド古代思想を概観し、仏教興起時代の社会的背景と  
仏教との関わりを見、さらに六派哲学を仏教と関連づけ  
ながら、説明することにした。

〔教科書〕 とくに指示しないが、早島鏡正他三共著  
『インド思想史』（東京大学出版会）  
¥3,000 を中心にして講義する予定。

### 経典講読Ⅰ

石 川 力 山

前期では『法句経』『梵網経』を講読する。『法句経』  
は仏陀の言葉を集めた、すぐれた仏教入門書であり、人  
間の正しい生き方が端的に示されている。『梵網経』は  
大乘菩薩戒を説く経典で、中国・日本で重視され、最澄  
以後の日本仏教は、ほとんどこれによっている。

後期は、一切法が空・無我であることを説く代表的な  
大乘仏典『金剛経』を講読する。『金剛経』は、中国、  
チベット、日本を通じて古くから流布した経典で、禪家  
宗では六祖慧能以来特に重んじられ、多くの注釈書が作  
られた。

〔教科書〕 適宜指示する。

〔参考書〕 『ブツダの真理のことば、感興のことば』  
（岩波文庫）『梵網経』（大蔵出版）  
『般若心経・金剛経』（岩波文庫）

### 経典講読Ⅱ

岡 部 和 雄

大乘経典とくに初期に成立した般若、維摩、法華など  
の諸経には大乘思想が横溢している。この経典講読Ⅱで  
はそれらの大乘諸経から適切なパッセージをとりだし、  
講読する。大乘仏教がそれ以前の仏教とどのように相違  
するか、何をどう受けついで発達させたかを考える。

漢訳を中心とするが、梵文やチベット訳についても必  
要があれば言及する。

### 仏典演習Ⅰ

佐 藤 達 玄

諦観の『天台四教儀』を講読して、天台教学の大綱を  
考察する。

〔教科書〕 各自プリントして用意すること。

### 仏典演習Ⅱ

平 井 俊 栄

「七十五法名目」を読む。本書は、世親作「俱舍論」  
の教義を簡潔に要約したものである。「俱舍論」は、説  
一切有部（代表的な小乗部派仏教）の立場で書かれた仏  
教概論である。本書の講読によって、「俱舍論」教義の  
概略を知るとともに、仏教の教理研究のための指針とし  
たい。

〔教科書〕 『七十五法名目』（大正大蔵経若第61所収）  
のプリント。

〔参考書〕 『七十五法』（『仏教大系』所収）、『俱舍学概  
論』深浦正文著（百華苑）

### 仏典演習Ⅲ

池 田 魯 参

『大乘起信論』を講読する。本論は、救済の根柢を自  
性清浄心として示し、生存が迷いと悟りに展開する構造  
を極めて簡明に説明する。

本論の成立については、すでに学者間に中国選述説が  
ある位であるが、本論が漢字仏教圏に与えた影響は実  
に多大なものがある。慧遠・元曉・法蔵の三疏を代表とし  
て、中国・日本での未注書も二百数十種を数えている。

講読にあたっては、できるだけ原文についての異説にも考慮を払い、文章表現によって現われる本論の教學思想の特質を把握してみたい。

〔教科書〕 平川彰『大乘起信論』(大蔵出版社) ¥2,500

## 仏典演習Ⅱ

伊藤隆寿

中国隋代の嘉祥大師吉蔵の『三論玄義』を講読する。本書の特色は、破邪即顯正であるとされるが、吉蔵は、その破邪の部分で、インドの外道批判、中国の老莊等の批判、アビダルマ仏教と成実論、そして中国仏教者に対する批判を展開し、空思想の一面である批判的精神を大いに発揮する。これらの論述を通して、大乘空観のあり方をさぐると共に、空観仏教の中国的展開の様相をも理解するようにしたい。

〔教科書〕 大正大蔵経第45巻を各自コピーすること。

〔参考書〕 三枝充恵『三論玄義』(大蔵出版)

## 仏典研究

岡部和雄

漢訳仏典の翻訳・流伝についても研究すべき種々の問題が存する。中国・日本をはじめとする漢訳仏教圏は、漢文で記された仏典を中心に展開してきた。その意味でも漢訳仏典の成立史に関する知識は重要である。経録の使い方、訳語訳文の時代的変遷、訳経三蔵の伝記などについて平易な解説を施したい。敦煌出土仏典の価値についてもふれるつもりである。

## 仏教研究

田上太秀

『仏教の諸問題』と題して、まず釈尊と道元禪師の二人を対比し、教理と実践との両面における異同を検討する。釈尊と道元禪師の対話を考えている。

## 原始仏教

片山一良

仏教のルーツを原始仏教と呼ぶ。インドから中国、日本などへと伝わった大乘仏教、スリランカ、ビルマ、タイなどに伝わった上座部(俗にいう小乗)仏教、これらはすべて釈尊時代の原始仏教に端を発している。その基

本的かつ重要な教理、学説を紹介しつつ、仏教ないし原始仏教文化の本質を考究する。

〔参考書〕 水野弘元『原始仏教』(平楽寺書店)

中村元『原始仏教の成立』(春秋社)

平川彰『原始仏教の研究』(春秋社)

## 仏教特講Ⅰ

平川彰

八宗綱要を概説的に講義をなし、仏教通論的な理解を得しめることを心掛ける。若し時がたまれば、禪仏教ならびに浄土教についても講義をする。

〔教科書〕 竜谷大学編『八宗綱要鈔』(永田文昌堂)

〔参考書〕 平川彰『八宗綱要』(大蔵出版社)

## 仏教特講Ⅱ

納富常天

鎌倉新仏教の成立および旧仏教の復興について考察し、あわせてその展開を概観する。

〔参考書〕 家永三郎監修『日本仏教史Ⅱ 中世編』(法蔵館)

## 仏教特講Ⅲ

鎌田茂雄

『華嚴五教章』を用いながら華嚴学の根本問題を講義する。

〔教科書〕 『華嚴五教章』(大蔵出版) ¥3,000

〔参考書〕 『華嚴の思想』(講談社) ¥1,600

## 仏教特講Ⅳ

太田久紀

『成唯識論』に依り、唯識三十頌第十七頌より講読。(唯識九難義・三性説・断道など)

〔教科書〕 『選註成唯識論』(中山書房) ¥3,500  
但し、他のいかなるテキストでも可。

## 外国語仏書演習

松本史朗

Th. Stcherbatsky: Buddhist Logic Vol. I, Introduction (pp. 1~58) をテキストとして用いる。著者はロシアの世界的な仏教学者である。同書は、現在学界において盛んに行われている仏教論理学研究の先駆的作品であり、古典的名著とも言いうるものである。

## パーリ語(初級)

福田孝雄

パーリ語の初級文法を、下記のテキストを用いて学習する。なお、後期からは適宜用意したプリントを使って、実際に文章を読むことにしたい。

〔教科書〕 AN ELEMENTARY GRAMMAR OF THE PĀLI LANGUAGE (by KEIKI HIGASHIMOTO) ¥1,800

〔参考書〕 水野弘元『パーリ語文法』

## パーリ語(上級)

福田孝雄

前期では、Dines Andersen のパーリ語読本を講読するが、後期には、適当なテキストを選び読んでいきたい。

〔教科書〕 A PĀLI READER WITH NOTES AND GLOSSARY ¥2,300

## パーリ語演習

片山一良

前半は律(Vinaya)より、後半は論(Abhidhamma)より一篇を選んで読む。パーリ語の読解力を養うと同時に基本的術語の習得を目指したい。

テキストは、プリント(コピー)にて配布。

## パーリ仏教特講

片山一良

パーリ仏教とは、原始仏教から今日のテーラヴァーダ(南方上座部)仏教にいたる「パーリ語聖典」を中心とする仏教をいう。その基本的性格は何か? 本講はこれ

を教義(テキスト)、実践(コンテキスト)の両面から探ろうとするものである。特に従来の文献学に新しい人類学的方法論を導入した、いわば「仏教人類学」の立場からアプローチしたい。本年度は「スリランカ(セイロン)の仏教」について講ずる。

〔参考書〕 R. Gombrich: Precept & Practice 1971 (Oxford U.P.)

M. Carrithers: The Forest Monks of Sri Lanka 1983 (Oxford U.P.)

M. Southwold: Buddhism in Life 1983 (Manchester U.P.)

## サンスクリット語(初級)

金沢篤

仏教やヒンドゥー教などを理解するために重要なサンスクリット語を、J・ゴンドラ著『サンスクリット語初等文法』を教科書として学習する。

〔教科書〕 『サンスクリット語初等文法』(春秋社) ¥2,000

〔参考書〕 『サンスクリット文法』(岩波書店) ¥1,700

## サンスクリット語(上級)

金沢篤

サンスクリット語(初級)文法に一通り親しんだ者を対象とする。比較的平明なサンスクリット語文献を実地に読むことを通じて、文法の基本的事項を確認し、実際的な読解力を養う。テキストは、開講時に指示する。

〔参考書〕 『サンスクリット文法』(岩波書店) ¥1,700

## サンスクリット語演習

袴谷憲昭

これは、純然たるサンスクリット文学の演習ではないことを、まずお断りしておきたい。テキストとしては、以下の校訂本を底本に『法華経』を読む。いうまでもなく本経は仏典中最も文学性の高い経典として読みつかれてきたものであるが、テキストは、いわゆる仏教混淆サンスクリット語で書かれており、通常のサンスクリットの知識に加えて、それなりの新たな準備が要求されよう。少なくとも、サンスクリット初級を終え、上級を並修しようとするもの以上の学生であることが望ましい。本年度は「方便品(Upāyakaūśalya-parivarta)」の途中から読み始める。

〔教科書〕 Kern and Nanjio (ed.), Saddharmapundarika (Bibliotheca Buddhica, X)

〔参考書〕 Edgerton, Buddhist Hybrid Sanskrit Dictionary, Motilal Banarsidass (repr.)

### チベット語 (文法)

松本史朗

チベット語は、インド仏教・チベット仏教の研究を志す者にとって必須の語学である。本科目は、チベット語(文語)の文法を下記の教科書を用いて教授するが、教科書は未公刊につき、コピーを使用するので、受講希望者は開講初日に必ず出席すること。

〔教科書〕 山口瑞鳳『チベット語文法』

### チベット語 (講読)

山口瑞鳳

インド大小乗仏教、チベット仏教における教理や、チベット語に訳出された仏典を利用して仏教に学びたいと思う人たちの為に、11世紀にチベットに入学してこの国の仏教界を指導した Atiśa (982—1054) による著作『菩提道燈論』Bodhimārgapradīpa の自注本を読む。数多くの経や論の引用文を見ることによって各種の文体に慣れるが、同時に注釈書の表現法を領解し、インド大乘仏教の基本的な考え方も学ぶことが出来る。聴講者はチベット語文典を学んだものであることが望ましいが、文字を習得し終えたものであれば、熱意次第で受講は可能である。

〔教科書〕 デルゲ版、北京版による同書のゼロックスコピーを用いる。

### ラテン語特講

佐藤 玖美子

この講座は、英米語をはじめとする現代ヨーロッパの言語のより良い理解者となるための、古典ラテン語の基礎知識の習得、とくに文法規則を学び、動詞、名詞の変化に慣れることを目的としています。また平行して、やさしいラテン語で書かれた読物の講読も行いたいと思います。

〔教科書〕 『詳解ラテン文法』(研究社)

### 宗教学概論

松本 皓一

自己(セルフ)・自我(エゴ)といったものを中心に据えて、人間における宗教とは何かということを考えてみる。こうした視点からの考察が「我」からの解脱を理想とした伝統的宗教の教理にも遡源できるのではないかとと思われる。或いは伝統的教理からも、この視点への関心をもつことが必要ではないかと思われる。

〔参考書〕 坂部 恵『仮面の解釈学』(東大出版)¥980  
池見西次郎『セルフ・コントロールの医学』(日本放送協会)¥750 その他随時指示。

### 宗教史

松本 皓一

宗教の教理史でなく、宗教が社会的事実として人間生活の中で何を果たしてきたか、その歴史の変遷や経過を主要宗教について明らかにしてみる。

〔教科書〕 『世界の宗教』(大明堂)

### キリスト教史

三小田 敏雄

キリスト教の歴史を幾つかの重要な時期に重点をおきながら講義する。参考文献はその都度紹介するが、全体として下記の程度のもを自分で読んでおいて貰いたい。

〔参考書〕 曾根『キリスト教史』(日本基督教団出版局)

### キリスト教概論

金井 新二

この講義では、終末論と「神の国」思想を軸としたキリスト教思想史の概説を行う。「神の国」思想と終末論は、相互に密接に関連しあいつつ、時代とともに変化してきた。また、その変化は、各時代の歴史社会的問題状況とも深く相関的である。ここでは、このようなキリスト教思想の変遷をマクロに捉え、かつ知識社会的に分析することを試みたい。

〔教科書〕 なし

〔参考書〕 必要に応じて指示する

## 宗 教 哲 学

脇 本 平 也

宗教哲学とはいかなる学問か。そこで問われる問題は何か。それらの問題に対するアプローチの仕方にはどのようなものがあるか。こういった点について、宗教哲学史の展開過程をあとづけながら概観する。

〔参考書〕 適時指示する。

## 各 宗 綱 要 (日蓮教学)

北 川 前 肇

日蓮の教義は『妙法蓮華経』を根本としている。そこで日蓮の波瀾に満ちた生涯を辿りながら、日蓮の法華経受容の特質を考えてみたい。

〔教科書〕 立正大学日蓮教学研究所編『日蓮宗読本』(平楽寺書店) ¥1,900

〔参考書〕 茂田井教亨著『法華経入門』(大蔵出版) ¥750

## 仏 教 美 術

林 良 一

仏教美術の図像学ならびに古代インド美術の様式的展開について講述する。寺院の遺跡や仏菩薩の尊像を、原地撮影のカラー・スライドによって映写し、視覚的に理解を深めるようにする方針である。

〔教科書〕 林 良一『ガンダーラ美術紀行』(時事通信社) ¥2,200

## 仏 教 民 俗 学

和 田 謙 寿

集会や通夜・法事などに臨んだ際、必ず仏事などに関する質問を受けることがある。葬送習俗や靈魂に関する事柄、法名のつけ方や焼香の仕方、墓の建て方や年忌供養のしきたり、時には寺院の成立とその発展過程、野ぼとけの由来や伝説など、その質問の内容も色々である。このような時、相手に納得のつくような説明が出来たらさぞかし喜んでもらえる事であろう。このような時の心構えとして是非とも仏教民俗学の知識を身につけて置くことにしよう。住職をはじめ、郷土史や文化財の研究に従事しようとする者にとっては必須の学問であると言える。

〔教科書〕 和田謙寿著『仏教の地域発展』(仏教民俗研究会) ¥2,900

## 宗 教 教 育

松 本 皓 一

幼少時の宗教的情操の培養、青年期の心理と宗教カウンセリング、高齢者社会に対する宗教的アプローチ、困難な問題であるが「死」に直面した人々への臨牀的教化の問題点などを考えてみたい。

〔参考書〕 講義中随時指示する

## 宗 教 行 政

桜 井 秀 雄

この講座は、隔年開講とされている。個人および団体の宗教行為の執行と、国家(政治)の意志と、その作用とのかわりあいを究明することが本旨であるが、あらゆる宗教について、そのすべてを尽くすことはできないから、わが国の仏教教団、特に曹洞宗団の行政組織の史的究明を中心として、その流れをみることにする。

〔参考書〕 井上恵行著『改訂宗教法人法の基礎的研究』昭和53 三刷(第一書房刊)

小田原利仁編『宗教集団の明日への課題』昭和59(曹洞宗宗務庁刊)

## 教 化 法

皆 川 広 義

仏教における伝道法について、理論と実践との二面より概説したい。この場合、伝道とは教えを宣布する布教活動と、その教えにより対機を育成する教化活動を意味する。

理論面からは、教義、対機、伝道者及び伝道法の三点より、現代における仏教伝道のあり方をさぐる。

実践面からは、教えの宣布を中心とした布教活動と、教えにより教化育成する教化活動に分けて現場における実践として具体的に考察する。

希望するものには実習を行う。

## 青少年教化法

皆 川 広 義

仏教における青少年教化活動について概説し、次に、対機論と集団教化及び個人教化法を特にとりあげて詳説

したい。

対機論では、近代の諸科学の人間研究や仏教の人間観などをふまえて、幼児、少年、青年と身心の発達にそいながら特色及び行動などをさぐり、教化のあり方を求める。

集団教化法では、仏教青年会、禪的合宿研修（禅の集い・禅の家）スカウト・日校・子ども会などを、個人教化法では、人生相談・信仰誘引法など具体的に考察する。

希望するものには実習を行う。

### 青少年問題研究

和田謙寿

校内暴力や家庭内暴力、薬物乱用など、年々少年の不良化や犯罪が増加していることは誠になげかわしい次第である。国家や地方公共団体はこれに対応して万全の策をつくしているが、焼石に水の現状である。この種の問題は理論だけで済ませられるものではなく、実際のな面からの考察が必要である。今年は特に中学校および高等学校の教師をめざす者、ならびに青少年指導者を志す人々を対象として、その理論と現実との両者を見つめて考察する事にする。更に生活指導教諭を希望する者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一方法として考えられるので、その旨を授業のはじめに申し込まれる事を希望する。

〔教科書〕 和田謙寿著『少年補導の研究』（全防連）  
¥1,200

### 青少年指導演習

和田謙寿

将来、青少年指導者を希望する者、つまり、社会教育主事や社会福祉主事、少年指導委員・補導教諭などの業務に従事しようとする人たちには是非とも必要な講座である。本年は少年の非行問題を中心に授業を展開して行きたいと思う。特に教師になった場合は専攻をした学問は当然のこと、受持ち生徒の生活指導にも多大の比重で尽くさねばならぬので、非行対策の問題は重要な課題となる。

更に少年の問題に興味を持ち、研究しようと心掛ける者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一つの方法であろう。

### 哲学概説

齋藤知正

哲学は元来、外に対象に向う認識としてではなく、内に反省する主観の自覚たることを本質とする学問である。本講は哲学の外延的な概観よりも、内包的にその全体に通ずる本質への反省に主眼を置いて話を進める。

〔教科書〕〔参考書〕 教室で示す。

### 現代哲学概説

山下太郎

西洋近世哲学の流れを特に18世紀後半より現代に至るまで、ドイツ哲学を中心に辿ることとする。これがためカントの批判哲学より始めて、フィヒテ、シュリング、ヘーゲルへのドイツ理想主義哲学の展開を説明し、とくにヘーゲルの弁証法哲学の内容を詳述する。ついでヘーゲル左派の思想を解説したのち、これらの理性本位の哲学から意志を重視する哲学への移行をとりあげ、ショーペンハウエルからニーチェをへて、現代実存哲学に至る移りゆきの過程を明かにしたい。ヘーゲルの理性の哲学と対比の意味で、ショーペンハウエルの意志哲学を詳説するが、全体として歴史を専攻する学生に役立つよう、歴史哲学、社会哲学に重点をおいて講義する。

〔教科書〕 山下太郎著『社会存在の理法——ヘーゲルとショーペンハウエル』（公論社）¥2300

### 哲学史

中村友太郎

西洋の思想と文化は、ヘレニズムとヘブライズム、ギリシア哲学と聖書の信仰の結合の上に形成されてきた。ここではとくにキリスト教的な中世哲学の形成とその展開をあとづけることを主眼としたい。それは、神・自然・人間をめぐる理性の立場と信仰の立場との対決・調和・抗争の思想史という様相を呈するであろう。

〔教科書〕 教場で指示する。

〔参考書〕 その都度指示する。

### 哲学演習

齋藤知正

前年に引続いて John Macquarrie の近著（1982）“In Search of Humanity” をテキストにして演習を行

う。J. Macquarrie は Oxford 大学教授で、現代の英語圏を代表する著名な神学者であるが、神学はもとより、カントから現代哲学に至るまでの主として大陸の諸哲学、更に生物学・心理学・社会学等の近代諸科学をも包括する広範な視野とバランスのとれた感覚をもって、人間性の究明にとり組んでいる。本年は第16章以下の、宗教・受難・死・希望等の身近な問題を論じた諸章をとりあげることにする。

〔教科書〕 コピーを配布する。

コピー作成の都合上、学年の最初の授業において、受講生を決定する。以後は受け付けない。

### 哲学史特講

久保陽一

ドイツ観念論の歴史について、今日種々の面から従来へのヘーゲル主義的な見方に対する再検討が行われている。本講では、初期ドイツ観念論成立について取り上げ、つぎのような点を問題にすることにしたい。

(1)当時の神学、(2)後期啓蒙主義、(3)カント・ヤコービ・ヘルダー、(4)チュービンゲン神学校における思想的雰囲気、(5)ラインホルト・フィヒテ・シュリング、(6)ヘルダーリンと「ホムブルク・グループ」、(7)「ドイツ観念論最古の体系計画」、(8)初期ヘーゲルにおける転回。

〔参考書〕『世界の名著、カント』『世界の名著、フィヒテ・シュリング』（中央公論社）  
『ヘルダーリン全集』（河出書房）  
『ヘーゲル初期神学論集』（以文社）  
ヘーゲル『信仰と知』（公論社）

### 中国文学概論

飯田利行

日本精神文化史上、特に日本文学に最も影響を与えた中国文学の作品を中心として概論する。

〔教科書〕『中国文学概論』（中国・日本史文研究会発行）¥1,000

### 中国文学演習

飯田利行

中国の文学史上に、その比を見ざる良寛文学。また日本近代文学史上、漱石、朔太郎の人および作品に最も影響を与えた良寛珠玉の詩篇を演習する。

〔教科書〕『良寛詩集譯』（大法輪閣刊）¥2,400

### 東洋思想研究

船津富彦

いわゆる東洋という極めて広い範囲の中で、昔からいろいろの思想が発生し、展開して来たが、それらの中、特に日本にも大きな影響を与えたものに中国で形成された思想がある。本年度は中国で生れた思想の中から特に中国文学にあらわれた文学思想を中心にして、それに投影された儒教、老荘、或は仏教を副として、多くの資料を読みつつ、概説してみたい。

### 中国哲学史

窪徳忠

現在、中国の道教についての研究が不足のために、往々にして誤った認識が行われている。そこで、まず道教とはいかなる宗教か、その性格と内容についての私見を紹介したのち、仏教との関係を中心に道教史を略述したいと思う。

〔教科書〕『道教入門』（南斗書房）¥2,800

〔参考書〕『道教史』（山川出版社）¥1,900

『中国文化と南島』（第一書房）¥2,500

### 心理学概論

篠原英寿

この講座は基礎教育科目に組入れられているが、専門科目であるので、心理学の関与している問題を全般的に取上げたい。そこで、心理学とはどのような学問か。その研究方法・研究対象、及び意義について講義し、さらにこれまでの研究成果をもとに具体的事例に即して、上述したこととの関連を紹介したい。

〔教科書〕『心理学概説』（八千代出版）

### 演習 I・II

松本史朗

チベットの仏教哲学者ツォンカパの主著『ラムリムチェンモ』（チベット文）の毘鈴舎那章（『北京版西藏大藏経』第152巻 pp. 127~181）を、以下の翻訳書を参照しつつ読む。

和訳：長尾雅人『西藏仏教研究』

漢訳：法尊『菩提道次第広論』

英訳：A. Wayman "Calming the Mind and Discerning the Real"

# 教職および資格講座

教 職 課 程  
学 校 図 書 館 司 書 教 諭 講 座  
博 物 館 学 講 座  
社 会 福 祉 主 事 講 座  
社 会 教 育 主 事 講 座

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講出来る課程および講座は以下のとおりである。（履修についての詳細は「教職課程・資格講座の履修要項」を参照）

課 程 ・ 講 座 名	資 格 取 得 学 部
教 職 課 程	全 学 部
学 校 図 書 館 司 書 教 諭 講 座	全 学 部
博 物 館 学 講 座	文 学 部 ・ 仏 教 学 部
社 会 福 祉 主 事 講 座	全 学 部 (59年 度 入 学 生 より 適 用)
社 会 教 育 主 事 講 座	文 学 部 ・ 経 済 学 部 ・ 法 学 部 ・ 経 営 学 部



## 目

## 次

教育原理(磯野 昌蔵)……………	1	人文地理学概説(高木 久)……………	7
教育原理(上岡 安彦)……………	1	社会学原論(渡辺 源樹)……………	7
教育原理(村山 輝吉)……………	1	経済原論(小野 俊夫)……………	7
教育原理(坂本 信昭)……………	1	政治学原論(飯山 勇)……………	7
教育原理(北村 三子)……………	1	民法 I(山崎 敏彦)……………	8
青年心理学(伊藤 研一)……………	1	哲学特講 I(東洋)(篠原 寿雄)……………	8
青年心理学(武井 澄江)……………	1	哲学特講 II(西洋)(国嶋 一則)……………	8
青年心理学(藤崎 春代)……………	1	宗教学特講 I(松田 文雄)……………	8
青年心理学(牟田 悦子)……………	1	宗教学特講 II(脇本 平也)……………	8
青年心理学(渡辺三和子)……………	2	宗教学特講 III(洗 建)……………	8
教育心理学(伊藤 研一)……………	2	教育史(磯野 昌蔵)……………	8
教育心理学(久慈 洋子)……………	2	宗教教育(松本 皓一)……………	8
教育心理学(武井 澄江)……………	2	教育関係法規(北村 三子)……………	8
教育心理学(中村 均)……………	2	教育関係法規(船木 正文)……………	9
教育心理学(藤崎 春代)……………	2	図書館学 I(山崎 慶子)……………	9
教育心理学(荻野美佐子)……………	2	図書館学 II(前期 高橋 信行)……………	9
教育心理学(渡辺三和子)……………	3	(後期 山崎 慶子)……………	9
道德教育の研究(万羽 晴夫)……………	3	博物館学 I(倉田 芳郎)……………	9
教育実習(磯野 昌蔵)……………	3	博物館学 II(林 俊雄)……………	9
教育実習(上岡 安彦)……………	3	博物館実習 I(館務)(倉田芳郎・清水潤三)……	9
教育実習(村山 輝吉)……………	3	博物館実習 II(収集)(倉田芳郎・葉貫磨哉・所理	
教育実習(坂本 信昭)……………	3	喜夫・高浜 秀)……………	10
教育実習(北村 三子)……………	3	博物館実習 III(見学)(倉田芳郎・林 俊雄)……	10
国語科教育法(神谷 道倫)……………	4	博物館実習 IV(特講)(58年度以前入学生適用)	
書道科教育法(谷村 義雄)……………	4	(林 俊雄)……………	10
宗教科教育法(松本 皓一)……………	4	視聴覚教育(赤堀 正宜)……………	10
英語科教育法(大沢 一雄)……………	4	日本文化史 I(圭室 文雄)……………	10
社会科教育法(地理)(高木 久)……………	4	印度仏教文化史(奈良 康明)……………	10
社会科教育法(地理)(中島 義一)……………	4	西洋文化史 I(椽川 一朗)……………	11
社会科教育法(歴史)(野呂 肖生)……………	4	西洋文化史 III(阿部 重雄)……………	11
社会科教育法(谷敷 正光)……………	4	仏教美術(林 良一)……………	11
社会科教育法(長谷部八朗)……………	5	現代美術(宮崎 克己)……………	11
社会科教育法(大久保治男)……………	5	禅美術(竹内 尚次)……………	11
職業科教育法(佐藤 規子)……………	5	美術史概説(林 良一)……………	11
商業科教育法(谷敷 正光)……………	5	西域美術史(林 良一)……………	11
商業実習(前田 幸一)……………	6	考古学概説 I(日本)(倉田 芳郎)……………	11
職業指導(山田 勇治)……………	6	考古学概説 II(外国)(飯島 武次)……………	12
産業概説(和田 禎一)……………	6	考古学特講 II(飯島 武次)……………	12
世界史概説(中村 道雄)……………	6	考古学特講 IV(高浜 秀)……………	12
世界史概説(渡辺 惇)……………	6	日本民俗学(山折 哲雄)……………	12
日本史概説(芥川 龍男)……………	6	仏教民俗学(和田 謙寿)……………	12
日本史概説(波田野富信)……………	7	宗教人類学(佐々木宏幹)……………	12
地誌学概説(今朝洞重美)……………	7	考古発掘実習(飯島 武次)……………	12
地誌学概説(長野 覚)……………	7	社会福祉概論(岡田 真)……………	12
地誌学概説(渡邊 盾夫)……………	7	障害福祉論(原田 信一)……………	13
自然地理学概説(早船 元峰)……………	7	社会福祉実習 I(岡田 真)……………	13

社会福祉法制（小林 弘人）	13
公的扶助論（小沼 正）	13
児童福祉論（原田 信一）	14
老人福祉論（奥山 正司）	14
社会保障概論（小沼 正）	14
地域福祉論（岡田 真）	14
ネットワーク論（高橋 重宏）	14
グループワーク論（前期 松本 栄二）	15
（後期 春見 静子）	15
社会福祉事業発達史（林 千代）	15
母子福祉論（林 千代）	15
医療社会事業論（春見 静子）	15
社会福祉方法総論（高橋 重宏）	15
社会福祉管理運営論（重田 信一）	16
リハビリテーション論（原田 信一）	16
社会教育概論（磯野 昌蔵）	16
社会教育方法論（村山 輝吉）	16
社会教育行政財政（酒匂 一雄）	16
教育社会学（熊谷 一乗）	16
社会心理学（坪井 健）	17
社会教育施設（村山 輝吉）	17
児童教化（富田 博之）	17
青少年問題研究（和田 謙寿）	17
青少年指導演習（和田 謙寿）	17
社会教育演習（上岡 安彦）	17
教育法規研究（神田 修）	18
成人指導及青少年指導（酒匂 一雄）	18
生活指導（秋山 さと子）	18
教育哲学（汐見 稔幸）	18
教育調査（大塚 雄作）	18
教育学特講（熊谷 一乗）	18

## 教育原理

磯野昌藏

教育とは何か  
中等教育の歴史と問題  
青年期の特徴と中等教育  
中等教育の教育課程

## 教育原理

上岡安彦

『エミール』(上・中・下)を年間を通して読みます。次にそこで、でてくる問題について日本の現象を例として教育学的に考察します。

そして最後に原典に直接触れ、ルソーの音楽の音色を身体で感じるものとします。

〔教科書〕『エミール』(上・中・下)岩波文庫  
上¥550, 中¥450, 下¥450

〔参考書〕『教育学研究入門』(東大出版会) ¥1,800

## 教育原理

村山輝吉

前半は主として下村湖人の教育論などを軸に、教育とはなにかということを原理的に考察する。後半は、いくつかの実践記録をとりあげ、それを読みあうことを通して、今日の教育がかかえている問題点を追究したい。

## 教育原理

坂本信昭

1. 私たちの受けた教育をふりかえてみよう。2. ひとの成長・発達・成熟。3. 家庭の役割, 地域のはたらき。4. 学校に期待されるもの。5. 授業のなかみを考える。6. 学習をふかめる。7. 人格をはぐくむ。8. 障害児について。9. 内なる差別を考える。10. 教師について。11. 教育制度を見直す。12. 学びへの出発(生涯教育)。という全体構成とテーマについてともに考えていきたい。

〔参考書〕『教育原理』(学芸図書) ¥900

『ビジュアルノートきょういく』(エイデル研究所) ¥未定

## 教育原理

北村三子

自分達の受けてきた教育の性格や問題点をより広い視野から捉え直すことを目標に、前半では近代公教育の歴史の成立とその性格について触れ、次いで民族学・民俗学・動物行動学などの知見を通して教育の原型を探ってみたい。また後半では、現代社会における教育の諸形態とその機能を今日の教育問題にもふれつつ検討する予定である。

〔参考書〕 適時指示

## 青年心理学

伊藤研一

青年の心理の諸相を、発達段階、精神分析的理解の境地から概観する。必要に応じて臨床事例や実証的研究を紹介する。

## 青年心理学

武井澄江

青年期を乳幼児、児童期から成人への発達系列の中に位置づける。その上で、人間に特有だといわれるこの時期の発達上の特徴をとらえていく。特に、人格、人間関係、価値観など社会的生活の側面が中心となるだろう。なお、講義の中で、人格検査等の実習も行う予定である。

## 青年心理学

藤崎春代

前半は、乳児期から児童期までの発達を、各期の発達課題に焦点をあてつつ概観する。後半は、青年期の諸問題について検討する。

## 青年心理学

牟田悦子

青年期は第二の誕生といわれるが、出生以来つくりあげてきたパーソナリティの変革と再構成の時期である。はじめに、人間の発達の中での青年期を位置づける。こ

これは青年期にある受講者の自己理解の作業も含む。次に現代の青年たちがかかえている問題、教育の場で問題となっている様々なことがらについて共に考えていきたい。

〔参考書〕『中学生の心とからだ』(岩波書店) ¥950,  
『大人になることのむずかしさ』(岩波書店)  
¥950

## 青年心理学

渡辺三和子

前期は人格が形成されるとはどういうことか、青年期は人格の形成にとってどんな位置にあるのか、青年期の特徴は何か、等を検討する。後期は、中・高校生に起こりがちな問題行動について述べる。

## 教育心理学

伊藤研一

教育心理学を発達、学習、人格、適応等の諸側面において概説する。

〔教科書〕『教育心理学・改訂版』倉石他編著(新曜社)  
¥1,500

## 教育心理学

久慈洋子

子どもの発達の道すじを述べ、教育がどのように関与して発達を支えていくかについて論ずる。具体的には、次のような流れに沿って授業をすすめる。

- 1) 発達とは何か
- 2) 発達と教育
- 3) 発達の諸側面(認知・思考、情動、自我形成など)
- 4) 教授・学習の過程
- 5) 個人差と教育
- 6) 学習の評価・テスト
- 7) 教師と学級経営
- 8) 児童文化——子どもの考えていること

〔参考書〕『教育心理学』(有斐閣新書) ¥580, 『児童心理学 テキストブック心理学(4)』(有斐閣) ¥1,100 『子どもの能力と教育評価』(東大出版会) ¥980

## 教育心理学

武井澄江

「発達」「学習」「パーソナリティと適応」「集団」「評価」などに関する心理学的知見を概説する。心理テストの実習も含む。

## 教育心理学

中村均

人間の変化を、①時間的な変化を視点にして眺めた「発達」、②経験を視点にして眺めた「学習」、③変化が人によって異なる点に着目しての「個人差」、④1人だけみた時と集団でみたときとは変化の具合が違う点に着目しての「学級集団の役割」、この4点から検討するとともに、その検討のためのデータを得る手段である「教育評価」について、概観する。

〔教科書〕東正(責任編集)『教育心理学要説』(川島書店)

## 教育心理学

藤崎春代

前半は、乳児期から青年期までの発達を、各期の発達課題に焦点をあてつつ概観する。後半は、教育をめぐるいくつかの問題(授業・評価・テスト・障害児、等)について検討する。

## 教育心理学

荻野美佐子

教育の過程を心理学的に理解し、科学的に考える態度を形成する。人間の発達やパーソナリティの理解のしかた、個人差についての考え方、学習のメカニズム、教育評価の方法、教師-生徒関係の力動性などについて講義する。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

## 教育心理学

渡辺 三和子

前期は教育を受ける子どもをよりよく理解するために次の点を考察する。発達と学習、学習活動のメカニズム、知的な発達のみならず、動機づけ、個人差について。

後期は、教育方法と評価について述べる。個人差に応じた教育とは。さまざまな授業方法の試み、評価の方法について。

## 道徳教育の研究

万羽 晴夫

今年度は、生徒指導という事柄に目をむけてみたいと思う。

子どもは、様々な場面で様々な行動を演じるのであるが、その際彼らは多様な意味を行動——表現に付与する。それらの意味を読みとり、解説していくことについて考えてみたい。

対象は、preadolescence から early あるいは mid adolescence にかけての子どもたちである。

別言すれば、本講義のテーマは、子どもにおける対人関係ない「子ども——子ども関係」の意味と構造の検討と述べてもよいかもしれない。

〔参考書〕 ミード『精神、自我、社会』（青木書店）

## 教育実習

磯野 昌蔵

### 実習前の指導

教育実習について諸注意  
学習指導のための準備

### 実習期間中の指導

### 実習後の指導

教育実習の体験をもとにして、学習指導や生活指導  
その他教育の現場における諸問題を検討する。

## 教育実習

上岡 安彦

### 事前指導

学校の教師としての仕事について講義  
学習指導案作製実習

### 訪問指導

実習期間中の研究授業参加

### 事後指導

デューイの『学校と社会』によって自分の教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕『中学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）  
¥250

『高等学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）  
¥300

デューイ『学校と社会』（岩波文庫）¥300

## 教育実習

村山 輝吉

教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解と関心が深まるよう、年間を通じて次の事項を取りあげる。

1. 教育実習の意義と心がまえ
2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

現場における実習の体験をはさんで、講義、討議、レポート作成、面談等、適宜の方法と形態で進めていく。

## 教育実習

坂本 信昭

本学の教育実習は“通年履修”となっており、教育実習前後の大学での授業はおおむね下記のとおりに進めま

す。  
教育実習前の段階では、(1)教育実習の意義及び目標・内容（領域）に関する講義とそれに並行して、(2)実習校における教育実習の事例を示し、(3)教育実習の心得などについての事前指導を行う。

教育実習後は、(1)教育実習の口答報告、(2)レポート提出、(3)グループ編成による授業（ディスカッション）を行い教育への理解を深め、望ましい教師のあり方などについて考える、いわゆる事後指導を行う。

〔参考書〕『教えるということ』（共文社）¥580

『世界でいちばん自由な学校』（人文書院）  
¥1,600

## 教育実習

北村 三子

実習前は、教育実習の意義や心構えなどを過去の実習生の事例なども交えて講義や話し合いを行なう。実習後は各自の体験をふまえて、授業や生活指導上の問題や教師のあり方などについて考え合う。





































